

デンマーク日本人会



JDNET

Den Japanske Forening i Danmark



絵：晶子 ソレンセン

特集： ENJAの加盟団体の紹介

連載： 生きた証拠の物語

デンマークで薬膳ライフ

グリーンランド

海とデンマークと日本と

日本人会活動報告



もくじ

目次	新会長 土屋理恵さんの挨拶	2	Koldinghusの見学の感想	18
生きた証の物語	～続く者たちへ～ 後編	3	4コマ漫画 マイルンの日常	20
新	ホームページプロジェクト	5	デンマークで薬膳ライフ	21
特 集	ENJA 加盟団体の紹介	6	グリーンランド	23
本の紹介	直撃インタビュー	9	海とデンマークと日本と	25
オンラインイベント	国際対話カフェ	10	デンマークの気になるお店紹介 Posh Jah	29
日本人会活動	さくらまつり	12	広 告	32
日本人会活動	シェラン	13	大使館からのお知らせ	33
日本人会活動	フュン	15	在外選挙広報	35
日本人会活動	ユラン	17	広 告・編集後記	36

会長就任のご挨拶

このたび、2026年3月のデンマーク日本人会総会においてご承認をいただき、会長を務めさせていただくことになりました土屋理恵です。

私にとって会長就任は今回が二度目となります。再びこのような大役をお任せいただくことを光栄に思うとともに、その責任の重さをあらためて感じております。

まず初めに、これまで日本人会の発展にご尽力くださった皆様に心より感謝申し上げます。特に前会長の桜木由美子様には、会長として日本人会の発展と会員同士の交流のためにご尽力いただきました。そのご貢献に深く敬意を表するとともに、心より御礼申し上げます。

桜木前会長の退任後、日本人会では約3年間、会長不在の期間が続きました。その間も理事会の皆様が中心となり、イベントの開催や情報発信を続け、日本人会という大切なコミュニティを支えてくださいました。私自身も一会員としてその活動に支えられてきた一人であり、理事会の皆様の献身的な努力に深く感謝しております。

日本人会は、デンマークで暮らす日本人とそのご家族をつなぐ場であると同時に、日本の文化や社会に関心を持つデンマークの皆様との交流の場でもあります。日本人会は多くのデンマーク人会員の皆様にも支えられています。こうした多様なつながりこそが、日本人会の大きな魅力であり財産だと感じています。

現在、理事会では会報誌の継続発行に加え、ウェブサイトのリニューアルや広報活動の強化にも取り組んでいます。より多くの方々に活動を知っていただき、会員の皆様にとって利用しやすい日本人会を目指してまいります。

日本人会は会長や理事会だけで成り立つものではありません。会員の皆様のご参加、ご協力、ご提案によって支えられています。ぜひ皆様のご意見やご要望をお聞かせください。

私も理事会の一員として、皆様と力を合わせながら、デンマーク日本人会をさらに盛り上げていきたいと思いをします。これまで築かれてきた良い伝統を大切にしながら、新しい取り組みにも挑戦し、より多くの方々に親しまれる日本人会を目指してまいります。

Formandens hilsen

På generalforsamlingen i marts 2026 blev jeg valgt som formand for Den Japanske Forening i Danmark. Det er anden gang, jeg påtager mig denne rolle, og jeg er både bæret og taknemmelig for medlemmernes tillid.

Jeg vil gerne rette en særlig tak til den tidligere formand, Yumiko Sakuragi, for hendes indsats for foreningen og for at styrke fællesskabet mellem medlemmerne.

Efter hendes afgang stod foreningen uden formand i næsten tre år. I denne periode fortsatte bestyrelsen arbejdet med stort engagement og sikrede, at aktiviteter, arrangementer og informationsformidling blev videreført. Som medlem har jeg selv oplevet værdien af dette arbejde og føler stor taknemmelighed over for bestyrelsens frivillige indsats.

Den Japanske Forening i Danmark er et vigtigt fællesskab for japanere og deres familier i Danmark. Samtidig er foreningen et mødested for mange danskere med interesse for Japan, japansk kultur og samfund. Foreningen bæres ikke kun af japanere og deres familier, men også af mange danskere med interesse for Japan. Netop denne mangfoldighed af mennesker og perspektiver er en af foreningens største styrker og værdier.

Bestyrelsen arbejder i øjeblikket med at videreføre medlemsbladet, forny hjemmesiden og styrke foreningens kommunikation. Målet er at gøre aktiviteter og information mere tilgængelige for både nuværende og kommende medlemmer.

Foreningen udvikles bedst gennem medlemmernes engagement. Derfor vil vi meget gerne modtage ønsker, idéer og forslag til fremtidige aktiviteter.

Sammen med bestyrelsen ser jeg frem til at fortsætte udviklingen af et åbent og aktivt fællesskab for alle medlemmer. Tak for jeres støtte og samarbejde.

Rie Tsuchiya

Formand, Den Japanske Forening i Danmark

ある日本人職人の 「なんとかなるさ」人生

【後編】

青柳敏夫

歴史を切り拓いたハサミ と日本式の気遣い

セリー・ファイフェルトでは、殺伐とした職場ではなく、和気あいあいと楽しく仕事をする「日本式の雰囲気作り」を実践。また、マルグレーテ女王をはじめ、ヨーロッパ各国の皇族の服を手がけるという大きな功績を残した。

欧州5人の女王の服を手掛け、ほかの著名人の衣装も担当。ベネディクト王女は最も頻繁な顧客であり、貴族夫人、文化人、映画女優、国立銀行、博物館の初代女性長官など、多くの顧客が彼の技を求めた。ロスキレを舞台にした映画の主演女優の衣装も担当した。それでも彼は、「女王の服を縫うのは当たり前。誰でも女王の服に触れられるように」と、王室の服を特定のベテランに独占させず、若い職人たちにも経験させた。

「三越時代、天皇の服は特定の人しか作れなかった」という自身の経験から、全員のモチベーションを高める方法をとった。技術の民主化の実践である。

結果として工房全体の能力を最大限に引き出した彼のハサミは、王族のドレスを作るだけでなく、デンマークの社会史にも刻まれた。

当時、女性警官が増え始めていたが、彼女たちにふさわしい制服が存在しなかった。青柳さんは、自身のプライドをかけて初の女性用制服を設計。警視総監に「今はずもう、そういう時代（女性が活躍する時代）ですね」と言わせしめ、歴史を動かした。



セリー・ファイフェルトでは、初代社長とその娘（二代目）を技術面で支え続け、既製服生産から一点物オートクチュールの店への転換にも貢献。当時、工房で唯一、同等に技術の話ができる存在だったギリシャ人職人と協力し、「誰でも縫える型紙」「効率化」「品質向上」を研究した。既製服職人は技術が固まりすぎて応用が効かなかったため、職人学校のトップクラスの学生を育て、王室の仕事も任せるようにした。若い職人を育てるための技術体系化にも大きく貢献したのである。

「なんとかなるだろう」 の精神

当初は1～2年で帰国する予定だったが、デンマークの「残業がなく、付き合い酒もない」住み心地の良さに惹かれ、定住を決意。

デンマーク語学校の1～3レベルまで通ったが、文法中心で合わずに辞めてしまった。しかしその証明書は国籍取得に役立ち、面接時には警察官とデンマーク語で雑談しながら語学力を確認された。

また、コペンハーゲンで和道流空手を教え、真剣を使った演武やカーニバルなど活気ある活動を通じて多国籍の仲間を得た。空手スクールで出会ったデンマーク人の妻エルサさんと歩んできた異国での日々。



リタイア後は住み慣れたコペンハーゲンを離れ、ユラン半島の小さな町に住む娘一家のそばへ移住し、落ち着いた毎日を過ごしている。

オイルショックや会社の倒産など、激動の時代を生き抜いてきた彼の心にあるのは、高名な格言ではない。

「そのうちなんとかなるだろう」

昭和の喜劇王・植木等に重ねたその楽天的な精神が、彼を支え続けてきた。卓越した技術を持ちながらも決して威張らず、「日本式の気遣い」で職人たちを褒め、伸ばす。「会社に来るのが楽しみだった」と語る青柳さんの笑顔は、厳格な職人の顔というよりは、一人の自由な旅人のそれだった。

日本の伝統美とデンマークの風土、その二つを鮮やかに裁断し、一着の豊かな人生を仕立て上げた男の物語である。

文・菫畑敦子



青柳敏夫さん

奥様のElseさんと、ユランのシルケボー近郊に在住。デンマークの定年退職者の例にもれず、日々、なかなか忙しい毎日を過ごしていらっしゃいます。読書が大好き。興味を持つと、突き詰めて研究したくなるのは、性分としかいえません。

新

ホームページプロジェクト ～リニューアル進行状況～

既存のサイトのデータ移行を進めています。
情報を整理して既存会員がイベントなどを見やすく、
新規会員が魅力を感じてスムーズに入会できるように編集しています。
今年の秋には新サイトへ移行できるように進めています。



サイトのデザインイメージ

新しいホームページに関して、ご意見やご希望がありましたら、
こちらのアンケートサイトへ一言お願いいたします。

<https://forms.gle/4qtr1D2YmM4zL2bx9>



担当 左木



デーヤック友の会 (DeJaK-友の会)

DeJaK 友の会 副会長 札谷 緑

文化的背景に配慮した介護を目指すデーヤック友の会は、ドイツにしながら日本語での高齢者支援を実現すべく活動している公益法人です。2012 年に発足し、2026 年現在、会員数は 300 名あまりとなっています。ドイツの制度についての情報を収集して日本語で発信し、できるだけ多くの方々と共有できるよう、各地の友の会など既存のネットワークと協力する一方で、周辺にコミュニティーのない方への情報提供と支援を大きな課題としています。

当会は、厚生労働省の推進事業でもある認知症サポーターキャラバンの必要性にいち早く対応し、2014 年にはヨーロッパの認知症サポーターキャラバンのメイト（講師）の養成講習を実施、現在まで認知症サポーター講座を対面、オンラインの双方で実施しています。また、認知症サポーターキャラバン活動の一環としてのチームオレンジ（日本では 2019 年より開始）を「ドイツ」という条件に合わせた形で取り入れ、一人暮らしの方、日本語環境が周囲にあまりない方、認知症の方やご家族などの早期支援を目的に、見守りサービスや地域のネットワークづくりに励んでいます。認知症の家族を抱える方々が気軽に参加して実情や困りごと、自身の状況について語れるオンラインの会も開催しています。その他、ドイツの福祉団体や介護ボラン

ティア団体との提携を進め、自助や互助にとどまらず、ドイツの制度や団体を積極的に利用できるようにすることに努めています。ドイツの団体とつながること、ドイツの団体に当会の存在を知ってもらうことは、支援や介護を必要としている邦人、とくに日本人ネットワークとはそれまで距離をおいてきた邦人の方々とつながる機会の増加につながっています。ドイツの専門団体との協力の下、各地では、ドイツの介護保険の給付対象となる訪問ボランティアの養成・派遣も行われています。

当会発行の冊子「ドイツで送る老後」は、2014 年の日本国大使館による委託調査がもととなっています。その後、改訂変更を重ね、現在もドイツの介護保険、高齢者の住宅事情、法的な備えについてドイツで老後を過ごす方が最低限知っておかなければならない情報をまとめており、毎年、各地で冊子内容の説明会を行っています。ここ近年は、ドイツの事情に合わせた「備えファイル」(日本の「エンディングファイル」に似ていますが、ドイツの法制度を重視した内容になっているもの)を作成し、ホームページより、利用したい方が無料でダウンロードできるサービスも行っています。

今後の大きな課題はボランティアだけで成り立っている当会の継続的な担い手を



獲得していくこと、また、現地の日本人会などがない地域の日本人の方々とどのような形でつながり、情報を提供していけるか、そして、日本を参考にした認知症との共生社会の構築にいかに関与していけるかについて、具体的な道を探すことにあります。

公益法人 文化を配慮した介護 DeJaK-友の会

Deutsch-japanischer Verein für
kultursensible Pflege DeJaK-Tomonokai e.V.
Mail spennemann@dejak-tomonokai.de
<https://dejak-tomonokai.de/> (日本語)
<https://www.instagram.com/dejaktomonokai/>
(インスタグラム)





英国日本人会30周年 — 英国の日本人コミュニティとともに歩んだ30年

英国日本人会副会長 Whitehouse 佐藤敦子

今年、英国日本人会 (Japan Association in the UK: JA) は創立 30 周年を迎えました。また、日本人会が維持・管理を担うヘンドン日本人墓地も設立 90 周年という大きな節目を迎えています。この二つの周年は、英国における日本人コミュニティの歩みを振り返り、未来へつないでいく貴重な機会となっています。

1996 年に英国日本人会が設立された当時、英国で暮らす日本人の多くは企業駐在員とその家族でした。しかし、この 30 年間で英国の日本人社会は大きく変化しました。現在では約 6 万 4 千人の日本人が英国で暮らしており、企業関係者だけでなく、永住者、留学生、研究者、医療従事者、自営業者、国際結婚家庭など、多様な背景を持つ人々が生活しています。日本人コミュニティの姿が変化するなか、英国日本人会もまた、人と人をつなぎ、支え合うコミュニティとして歩みを重ねてきました。

設立当初から掲げてきた目的は、「英国に居住する日本人相互の親睦を図り、ボランティア精神に基づく互助と福祉活動を促進すること」、そして「英国日本人社会の発展に寄与するとともに、日英両国の国際理解への橋渡しとなること」です。2012 年には英国政府公認のチャリティ団体として登録され、2015 年からは在英日本国大使館の歴代総領事が名誉会長を務めています。運営は現在もすべてボランティアによって支えられており、永住者だけでなく駐在員やその家族も参加できる開かれた団体として活動しています。

英国日本人会の活動は、先人たちが築いてきた歴史の上に成り立っています。その象徴ともいえるのが、今年 90 周年を迎えるヘンドン日本人墓地です。1936 年に設立されたこの墓地は、英国日本人会の前身である在英同胞会から受け継がれた貴重な財産であり、戦前から英国で暮らした日本人の歴史を静かに伝え続けています。現在も在英日本国大使館の協力のもと、英国日本人会が春、お盆、秋の年 3 回、清掃と供養を行い、大切に

維持・管理しています。

今年は 30 周年記念行事と日本人墓地 90 周年記念式典を開催し、在英日本国大使館をはじめ、英国の自治体、日本人コミュニティなど多くの関係者にご参加いただく予定です。こうした幅広い方々とともに節目を迎えられることは、英国日本人会が 30 年にわたり築いてきた信頼とつながり、そして日本人墓地が 90 年にわたり受け継がれてきた歴史を象徴するものと考えています。

また、「忘れな草プロジェクト」では、1950 年代以降に英国日本人社会を築いてきた方々への映像インタビューを行い、その経験や思いを記録しています。海外で日本人コミュニティを築いてきた先人たちの歩みを未来へ伝えることも、英国日本人会の大切な使命です。

現在の英国日本人会は、歴史を受け継ぐだけでなく、英国で暮らす日本人同士が支え合い、交流する場としても活動しています。設立当初から続く二水会と紅葉会では、毎月、講演会や文化セミナーを開催し、学術、文化、経済、医療など幅広い分野の専門家を招き、会員同士が学び、交流する機会を提供しています。また、福祉部では高齢者や支援を必要とする方への電話連絡や訪問活動、懇親会などを行っています。NALC (ナルク) では健康づくりや終活に関するセミナーなどを開催し、高齢化が進む日本人社会のニーズにも応えています。こうした活動は、人と人とのつながりを大切にする英国日本人会の原点となっています。英国社会との交流も英国日本人会の重要な役割です。英国日本人会は、日本文化の祭典「Japan Matsuri」を運営する在英日本関連 4 団体の一つとして企画・運営に携わり、日本文化の魅力を英国社会へ広く発信しています。また、日本語を学ぶ学生や、日本企業で働くビジネスパーソンを対象とした日本語スピーチコンテストへの協賛を通じて、日本語や日本文化への理解を深め、日英両国の架け橋となる次世代の育成にも取り組んでいます。

さらに、英国全土への桜の植樹を進める「日英桜植樹プロジェクト (Sakura Cherry Tree Project)」の運営にも携わっています。2018 年より桜植樹委員会が設置され、日本と英国の友好の象徴として各地で桜の植樹を進めています。植樹目標である 10,000 本は、2027 年 3 月に達成する予定です。このプロジェクトでも、英国社会とともに新たな景観と交流を育んでいます。

英国日本人会は、欧州各国の日本人会で構成される欧州日本ネットワーク (ENJA) の参加団体でもあります。昨年は英国が ENJA 大会の開催国となり、欧州各地の日本人会が、高齢化問題などの共通の課題について意見交換を行いました。その交流の輪は、来年デンマークで開催される大会へと引き継がれます。

30 周年と 90 周年という二つの節目を迎えた今年、私たちは改めて「人と人とのつながり」こそが海外の日本人コミュニティを支えてきたことを実感しています。昨年英国で開催された ENJA 大会から、来年デンマークで開催される大会へ英国日本人会も一参加団体として、このつながりを大切にしながら、欧州各地の日本人会が互いに経験を共有し、支え合い、海外で暮らす日本人コミュニティがさらに発展していくことを心から願っています。そして、その歩みを支えてきたのは、30 年間にわたり英国日本人会の活動を担ってきた数多くのボランティアの存在です。一人ひとりの小さな力の積み重ねが、今日の英国日本人会を築き、90 年の歴史を持つ日本人墓地を守り、日英交流や欧州の日本人コミュニティとのつながりを育んできました。これからもボランティアの精神を礎として、人と人とのつながりを未来へ受け継ぎ、欧州各地の日本人コミュニティとともに歩んでいきたいと願っています。





在蘭邦人相談窓口 SJH の紹介

(公財) 在蘭邦人相談窓口代表 藤木きよ

発祥

公財・在蘭邦人相談窓口 (SJH) は、今年 2026 年 7 月 25 日で 21 周年を迎え、また、ルーツである邦人連 (邦人連絡会議) からは先の 3 月で 23 年目を迎えました。この間、多様なオランダ組織との共同活動を行い、その事務所を約 4 年ごとに移転し、現在はホテルオオクラ・アムステルダム・メインスポンサーシップを得て、事務所を継続的に借りし、安定した運営の実現に漕ぎつきました。ここに辿り着くまでの道のりには、多大な協力を頂いた方々や、志を同じくする仲間が存在が大きな力となりました。現在までに SJH のボランティアとして約 40 名が活動し、現在は奉仕活動歴 10 数年以上の多才な人材を含む 10 名のメンバーにより、年々複雑さを増す広範囲な相談内容に対し、正確で洗練された対応を心掛けた活動が維持されています。ボランティア全体会議は、連番を付け始めてからこの 8 月で 60 回目を迎え、重い相談案件も軽い相談案件も含め、その回答数は 1600 件を超えました。かつて 20 数年前に引いた細い線路を、共に歩む仲間たちが支え、有能な人材を確保することで、継続可能な無料相談窓口の奉仕活動の維持・発展につながりました。

SJH の発祥を振り返りますと、2003 年 3 月より、在蘭日本商工会議所 JCC 邦人部会黒田元副会頭と在蘭日本国大使館鈴木元領事の呼びかけで、全国の邦人グループ・個人が集合し、略称「邦人連」の発足に向け動き始めました。当時、日蘭国際女性交流会「おらんだ会」の発起人・元会長・顧問の立場から藤木も会議に招かれました。「おらんだ会」と目的を同じくする邦人連に共感し、黒田元副会頭の打診により、邦人連・特別課題プロジェクトとしての生活相談窓口 (現 SJH) の発足を検討し始めました。元 JCC 事務局長の長田ゆき女史が参加した第一回発足会議 (25.7.2005) の場で、藤木は窓口代表として、会議出席者全員から承認を受けました。SJH の更なる沿革・共同活動・変遷・活動内容については、2020 年 7 月 25 日付け「あゆみ」本文や website :

<https://sites.google.com/view/jhelpdesk/home> をご参照ください。

「おらんだ会」については、発足 (商工会議所 KvK 登録) は 1983 年 11 月で、当時の 10 周年記念特別号を再読しますと、活躍された方々の名前やご支援頂いた元蘭日本国特命全権大使大鷹正令夫人や元藤田大使令夫人の懐かしいお名前がでています。大鷹節子令夫人の時代に始めて、オランダ全国の婦人会の横の繋がりが出来、大小の婦人団体を当時の在 Wassenaar 日本国大使公邸にて、行き届いたお茶会の場を設定頂き、藤木も協力のリスト登録者宛全員へのご招待を得ました。「おらんだ会」の元々の発祥は、会の KvK 登録数年前より、Uithoorn 市に在住していた数少ない日本人として拙宅へ、オランダ人や邦人からのあらゆる報告、相談、苦情、希望が入りました。よく話を聞いてみますと勘違いや互いの習慣文化に無知である事が原因の問題や相談事が殆どでした。そこで最初は我が家で、後に順番に各家庭持ち回りで日蘭婦人のお茶会を始めました。後に名称を「おらんだ会」とし、藤木は初期会長に選出され、顧問などを長く務めました。

その間、市の婦人連合会 (Federatieve vrouwenraad) へ 10 番目の会として「おらんだ会」が招待を受け、その後に連合会が解散をする 10 年間は図らずも、日本を代表するような形で席を暖めました。「おらんだ会」は日蘭役員の努力で 26 年間続き閉会、その後も日蘭の個々の交流が続いています。

大鷹正元大使などのご尽力で Amstelveen 市に開館しました EGCC (欧州囲碁文化センター) の 2019 年末の開鎖で、SJH は他の入居団体・個人と同様に事務所を無くしました。この折より幸いにも前述のメインスポンサー、ホテルオオクラ様のご支援で事務所を無料でお借りしています。Corona 伝染病騒動期には、SJH も閉鎖の状態が続きましたがこの間、Email 相談のみを 24 時間続行しました。

これまでの歩み

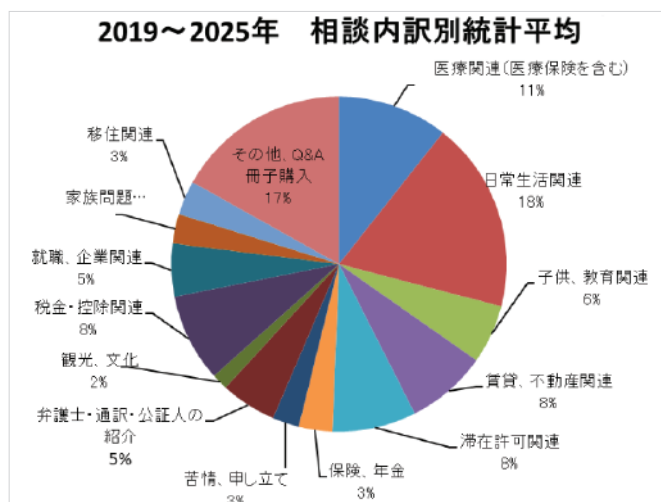
- 2003.5.9 在蘭邦人連絡会発足準備：在蘭日本商工会議所 JCC 邦人部会全体会議 (仮称)、後に「在蘭邦人連絡会」略称：邦人連に改称)
発足へ向け個別会議準備、初期運営委員 10 数名
- 2005.7.25 在蘭邦人連絡会・特別活動「生活相談窓口」発足
- 2005.8.16 Amsterdam 市紹介の Access (NPO 1986 年 Den Haag で発足・英語相談窓口) 初会合
- 2006.3.6 「生活相談窓口」、Access, Amsterdam 市の三者検討会談、JCC 元副会頭黒田氏参加
- 2006.10.29 第一回相談窓口チーム会議、「在蘭邦人相談窓口」へ改名
- 2006.11.14 ~ 2007.5.15 Access Amsterdam (2003 年発足、Herengracht 運河事務所) との半年間パイロット共同活動実施
- 2006.10 ~ 2011.3 Access Amsterdam (NPO) との全共同活動期
- 2007.11.19 「在蘭邦人連絡会」閉会解散会議。出席者：領事、副会頭、元副会頭、JCC 書記、委員 4 名
- 2007.5 ~ 2010.3 Access Amsterdam (AICS 学校へ移転) 事務所に邦人対象の無料相談実施
- 2009.9.28 Stichting Japanese Helpdesk 財団 Amsterdam K.V.K. 蘭商工会議所法人登録、発起人 4 名
- 2010.5 ANBI 公益財団法人認可
- 2011.4.1 ~ 2015.3 Expatcenter Amsterdam (市管轄) との共同活動
- 2015.3 ~ 2019.12 EGCC 欧州囲碁文化センターへ移転
- 2015.8 SJH 設立 10 周年記念レセプション開催、Q&A 誌発行
- 2020.1 ~ ホテルオオクラ UnoRoom 新事務所へ移転、共同活動開始
- 2020.7.25 公財・在蘭邦人相談窓口 15 周年記念冊子・Q&A 発行
- 2020.8.18, 2022.2.7/4.7/9.15, 2023.5.25, 2026.8.11 Hotel Okura 新入社員オリエンテーション
- 2025.7.25 公財・在蘭邦人相談窓口 20 周年記念・新 Q&A、記念カレンダー発行、記念冊子増刷

2019~2025 年相談案件別統計結果

Statistics by enquiry case from 2019-2025

Top3 (7 年間の年平均)

1. 日常生活関連 18 %
2. 医療関連 (医療保険含む) 11 %
3. 賃貸・不動産関連 8 %, 滞在許可関連 8 %, 税金・控除関連 8 %



近年の傾向

オランダ在住日本人の滞在のあり方が多様化している。相談では、個人事業主ビザの更新や永住権の取得、健康保険の選び方、税申告などについての相談が多い。賃貸関連では、長期にわたる深刻な住宅不足のため、緊急性のある住宅探しの相談が多数寄せられている。

Hej / Konnichiwa

MAYU KAMIYA



本の紹介

『こんにちは』の作者、 神谷麻由さんへの直撃インタビュー

日本人会会員で、長年この会報誌にも取材や、様々な形で貢献してくれた
神谷麻由さんが本を出されたと聞き、早速インタビューをさせて頂きました！

Y (山川) 出版するきっかけは？

K (神谷) この本は、内側から湧き上がる直
感に突き動かされて形になりました。

本を出すこと自体は、この5、6年ほど言い
続けていました。出版って格好いいなあと漠
然と思っていました。その時に、日本の事が
知られているけど、実際は微妙に違うなって
ずっと思っていたのです。その私なりの答え
をずっと書き溜めていたのですが、半分ほど
できているのにその先がなかなか進まない。
日本に関することを幅広く網羅した、いわば
「インサイダーガイド」のような本を作りたい
と思っていました。

そのうちにあるデンマーク人との出会い（こ
れは本書にも掲載）で、その時にその人に感
化されたことを文字にして、せっかくだから
本にしました。日本とデンマークが本で会う
というアイデアはその当時からありました。

Y 同じ内容がデンマーク語と日本語で掲載さ
れているので、『ページ数だけを見ると少し
もったいない』と思う方もいるかもしれませ
んね（笑）。

K そうなんですよ（笑）一番面白い点で、文
字数とか文字量にお金を払いたいという人
にとっては、「どういうこと？」と思われるか
もしれません（笑）。

Y 余白もありますね、読者自身が何かを書き
込めるような余白なんですか？

K 読書家の人には、なんじゃこれはってなり
ますね。

Y “出会い” というのもテーマにされていま
すね。私が思うにマイブックにしてくれとい
うことじゃあないか、余白にも自分で書ける
し。一度読ませていただきましたが、この本
は一度で理解するというより、その時々
の自分の状況によって受け取り方が変わる本
だと感じました。休日にゆったり読むのと、忙
しい毎日の中で読むのとでは印象が違う。だ
からこそ、一生を通して寄り添ってくれる一冊

なのではないかと思いました。

K 作者冥利に尽きます。本ではなく、アート
ピースとして、これを読んで感じてもらおう
というものです。文字を読む以外の体験をし
てもらえるアート作品として買っていただ
ければと思います。

Y 麻由さんの嘘のない思いのまま書かれてい
るので、だからこそ、このような作品になっ
たのでしょうね。でも感想を書きにくい本で
すね。

K (笑) 何かを動かせるものであれば、良く
も悪くもいいですね。

Y デンマーク人にも読んでもらいました？ど
ういう感想をもらいましたか？

K 難しいとは言われました。麻由そのものだ
ねとか、コンセプトがいいとも言われました。
いわゆる、コーヒータブルブッカーインテ
リア的な本だと。話が4種類入っていて、こ
の話のここが好きだとか言ってくれました。
デンマーク人と日本人で感想の大きな違いは
ないです。

Y 麻由さんのすることは想像を超えて予想で
きません！

K 最大の褒め言葉です（笑）

Y 娘さんも読まれましたか？どういう反応で
したか？

K 読み聞かせた時にマルタンとフランソワは
面白って言うてくれました。

Y 本を出してからご自分の変化はありましたか？

K 生んだ感じ！誰かが読んでくれているのは
嬉しい。私の名前をGoogleで検索したら作
家と出てくるのは以前と大きく違います。私
自身を言葉で説明しなくてもよくなった、そ
れが私にとっての究極の自由で、その為、本
を出しました。

Y 本が名刺代わりになったということですよ
ね。すごいです。これから本を読もうって思っ
ている人に何か、ここは注意して読んでほし
いというのがあれば、お願いします。

K 今、思いつきました。『読むな、感じる！』
です（笑）。

Y 続編は出ますか？

K もう既に続編を手がけています。この本「こ
んにちは」に関しては日本人会会員の方は日
本語もデンマーク語もわかる方なので、実は、
微妙にデンマーク語と日本語が違うところ
があります。ぜひ、間違い探しをしてみてください
（笑）。

オルボー在住の神谷麻由さんは、フットワー
クが軽く、デンマーク全国で、日本語や茶道、
書道、漫画などの日本文化を軸にアート表現
や交流の場をつくりながら、人と人・日本と
デンマークの繋がり結び目活動されています。
インタビュー中も笑いが絶えず、その自由
な発想と飾らない人柄に引き込まれ楽しい
ひとときでした。ありがとうございました。

取材・文：山川 愛
(シェーランド在住・家庭菜園が趣味)

匿名希望の方の感想

私の第一印象は、モダンアートのような作品だ
と思いました。先日現代アートのルイジアナ美
術館にも行きましたが、メッセージと絵がセッ
トになっていて、見ている人にその意味を考え
させるスタイルの展示でした。この本も同じよ
うな印象を受けました。私は「届くべくして届
く言葉がある、届くべくして届くタイミングが
ある、届くべくして届く人がある、そんなあな
たへ「こんにちは」」という部分が好きです。
今の私にはこの本に書かれている内容の全てが
ストンと理解できないかもしれませんが、いつ
か、ふっとその意味が理解できる時が来るのか
もしれません。その時を待ちながら、時折こ
の本を手にとって思いを巡らせるのも素敵です
ね。とても不思議な出会いでした。ありがとう
ございます。

感想文

デンマークの教育は、何を”学力”と呼ぶのか

国際対話カフェ vol.10

2026.3.29 オンライン

プレゼンター: 大福みみさん

福岡デンマーク協会 石田智之さん

今回の国際対話カフェに参加し、あらためて感じたのは、教育とは学校の内部だけで完結する営みではなく、労働市場や社会保障を含む社会全体の設計と深く結びついたものだということでした。

発表では、デンマークの学力を「正解を出す訓練」ではなく「問いを立て、説明し、議論し、意味をつくる訓練」として示していました。数学の口頭試験で重視されるのは、答えそのものではなく、そこに至るまでの考え方や説明です。

教科書を唯一の正解とみなさない。Bloomのタキソノミーの上位に位置する「分析、評価、創造」まで含めて学力を捉えている。これは授業方法の違いではなく、学力そのものの定義の違いです。

その背景には、教育と労働の接続があります。北欧では教育が職務能力の形成と結びつき、学歴や資格は「その仕事を担える証明」として機能している。職務や賃金は労使の枠組みの中で比較的明確に定義され、社会保障が転職や学び直しに伴う生活上の不安を小さくしている。だからこそ、人は一つの企業にしがみつくのではなく、市場の中で職務を積み上げることができる。日本が「会社に入るための学歴」の社会だとすれば、北欧は「仕事を担うための教育」の社会です。

発表を聞きながら、私はずっと自分の仕事のことを考えていました。私は組織人事コンサルタントとして企業研修にも携わっていますが、研修の場で常にぶつかるのは「正解を教えてください」「模範解答を見せてください」という声です。しかし人事に模範解答はありません。部下の行動を観察し、自分の言葉で説明し、対話し、判断する。数学の口頭試験と同じ構造が、日本の会議室にもあります。にもかかわらず、日本の管理職はその訓練を十分に受けないまま現場に立たされているのが実情です。ここに、ペダゴジーとアンドラゴジーの断絶があります。デンマークにはフォルケホイスコーレに象徴されるように、大人自身が学び続ける文化が社会の土台として根づいています。ペダゴジーだけを修正しても、それを支えるアンドラゴジーが動かなければ改革は表面で止まる。教師自身が学びの主導権を握っているからこそ、教師という職業が社会から尊ばれる。この順序が、日本ではまだ十分に共有されていないように思います。

では、何から手をつけるか。まず現場の仕事を見えるようにすることだと考えています。誰が何を担い、どこまでできれば一人前なのかを言葉にする。その仕事に評価をつなぎ、賃金をつなぐ。いきなり日本社会全体を北欧型にすることはできませんが、



「人に仕事をつける」のではなく「仕事に人をつける」という感覚を組織の中から少しずつつくることはできるはずです。

もっとも、今回の発表は日本の教育がダメだという内容ではありませんでした。日本の強みである基礎学力、勤勉さ、正確さの上に、問いを立てる力、説明する力、対話する力をどう重ねていくか。教育を変えるとは、学校を変えることだけではなく、仕事の定義、評価のあり方、大人の学び方を変えることでもある。今回の発表は、その問いを静かに、しかし確実に投げかけていました。

子どもの教育論でありながら、働く社会の設計や市民の育成までを射程に収めた素晴らしい発表でした。これだけの論点を一つの場に凝縮し、参加者それぞれに「では自分はどうするか」と考えさせる構成は、見事というほかありません。私自身がもっと学び、日本社会での実装に役立てたいと強く感じた時間でした。ありがとうございました。

石田智之 TOMOYUKI Ishida 組織・教育設計士
1972年生まれ、神戸市出身。福岡デンマーク協会所属。Petrif:

Medical Eir株式会社代表取締役。民間および公的医療機関において人事管理職を歴任。学生時代にグリーンランドの地政学的重要性に関心を持ったことを契機に、デンマークへと視野を広げる。北欧の福祉・教育・社会制度を探究し、北極域と北欧に関わる多様な人々との出会いを通じて知見を深めてきた。現在は、医療・福祉分野を起点に、企業や公的団体において、学びが実際に機能する組織づくりを支援している。教育を基軸に、「学びと組織、そして社会はどうあるべきか」を問い続ける。ArCII 国際政治課題北極域実践コミュニティメンバー（～2025年）。



講演サマリー&感想文

デンマークの大学における教員養成とAI活用

国際対話カフェvol.11

2026.6.23 オンライン

プレゼンター: 小栗一将さん

講演要旨:

6月28日、デンマーク日本人会と福岡デンマーク協会の共催による第11回「国際対話カフェ」をオンラインで開催しました。今回は、南デンマーク大学生物学科准教授で、デンマーク超深海研究センターに所属する小栗一将さんを迎え、「デンマークの大学に異動して—教員養成・英語の壁・AI時代の教育—」をテーマにお話いただきました。

小栗さんは、デンマークの大学教育を、外から見える「北欧教育のよさ」だけでなく、それを支える仕組みや努力まで含めて見るのが大切だと語られました。中心となったのは、大学教員養成プログラムです。デンマークでは、大学教員も教育理論、授業設計、学生へのフィードバック、授業改善などを体系的に学び、専門スタッフやスーパーバイザー、メンターの支援を受けながら、教員自身が学び続ける仕組みが整えられています。

特に印象的だったのは、授業を「教える場」だけでなく、「教員自身が学び、改善し続ける場」と捉えている点です。学生からは、授業内容だけでなく、ミーティングの進め方や作業分担、実験準備などについても具体的なフィードバックがあり、それを授業改善につなげています。また、学生が手を挙げにくい背景に同調圧力や失敗への不安があると考え、匿名で回答できるツールを活用するなど、参加しやすい環境づくりも実践されています。

後半では、AIと教育についても議論が広がりました。南デンマーク大学ではAIを単に禁止するのではなく、使用した場合は明記し、ファクトチェックや自己責任を重視しています。また、小栗さん自身も英語表現の改善にAIを活用し、自分の考えをより正確に伝える訓練に役立てているとのことでした。

発表後のグループ対話では、言語学習、議事録作成、思考整理、学生レポートへの対応、さらに合意形成の支援まで、AIのさまざまな活用方法が共有されました。今回の国際対話カフェは、デンマークの大学教育を理想化するのではなく、現地で実際に教え、悩み、試行錯誤している教員の実践から、教員養成、学生参加、英語、AI時代の学びについて具体的に考える機会となりました。

福岡デンマーク協会 事務局 (AIによる要旨作成)



福岡デンマーク協会 入江さん感想文

南デンマーク (SDU) 大学の小栗先生のお話を聞いて感じたことは、日本のファカルティ・ディベロップメントと大きく違うことでした。その発端はデンマークが「国際経済競争を勝ち抜くため」と明確であり、大学教員に理論と実践の両方から身につけさせるというプログラムを、教育学のコンサルタントとスーパーバイザー、またメンターをつけて実施するという充実した体制で実施されると伺いました。小栗先生が体験されたModule1~5までの話を伺い、各モジュールでの具体的な取り組みや葛藤を伺うことが出来ました。学生の同調圧力による発言控えは日本だけかと思いましたが、デンマークでもそういう傾向もあるということは少し驚きでした。(程度は違うと仰ってましたが) 私も講義ではWEBツールを使うことで同調圧力による発言控えを無くしていますが、そんなツールが不要なくらい心理的安全性を確保できる場作りが出来れば...と思っています。AIについても話を伺い、福岡デンマーク協会の方々とAIについてグループワークをして盛り上がる事が出来ました。気付きと学びの多い、楽しい2時間でした。幹事運営及び参加された方々に感謝致します。

福岡デンマーク協会 小野さん感想文

とても刺激的でした。あのような大学教員養成プログラム(教授法習得プログラム?)を修了した教員に育てられる学生は幸せですね。大学の教育学部の見学(レクチャー)の時にも思ったのですが、教育の質が高いなあと思いました。シラバスとポートフォリオが常に意識されて教育が進められているきめ細やかさを感じます。大学の存在意義自体日本とデンマークでは違いますよね。国立(国営)だから学生を集めなくてよいし、奪い合うこともない。教育の質を良くして国力を高めることに専念できるのはよいなと思います。

【見逃し配信】

<https://youtu.be/DkogyXYHBrg>

日本人会の活動報告

サクラフェスティバル

大阪大学からコペンハーゲン大学に交換留学をしている、滝本真奈帆（たきもとまなほ）と申します。サクラフェスティバルでは、バザーのお手伝いをさせていただきました。私は今回、同じ留学生の友達に誘ってもらい日本人会のボランティアに初めて参加しましたが、みなさん優しく気さくに話しかけてくださり、とても感謝しています。

私はサクラフェスティバル自体初めてだったのですが、想像以上にたくさんのお客さんが来てくださってびっくりしました。デンマークやスウェーデンに住む日本人の家族、地元の子どもたち、日本語を勉強しているデンマークや他の国出身の方々、本当に様々な方が少しでも日本に興味を持って足を運んでくれていることに、嬉しく誇らしい気持ちになりました。フェスティバル二日目で、絵本や簡単な日本語の本がほとんど売り切れてしまっていて、日本語を勉強したいというお客さんに申し訳なさを感じていましたが、表紙や挿絵を見て買ってくれたり、「これはどういう本？面白そう」「まだ日本語は読めないけどこれが読めるように勉強するよ」と話してくれたり、「日本が好き」と言ってくださるお客さんから私が元気をもらったような気がします。

私が留学生としてデンマークに来てから、日本語を勉強している、日本にワーホリに来たことがあるというデンマーク人大学生にたくさん出会いましたが、このサクラフェスティバルで子どもからお年寄りの方まで幅広い年代の、日本の文化が好きだという人々に会うことができ、驚きと嬉しさでいっぱいです。留学中にこのような貴重な体験ができて本当によかったなと思います。ありがとうございました！



滝本真奈帆

著者プロフィール

大阪大学人間科学部4年生です。大学では教育や福祉の勉強をしています。チャリティーディングをしています。8月まで交換留学でコペンハーゲンにいました。

日本人会の活動報告

カフェでおしゃべり

6月17日、初夏の気持ちのいい季節に、素敵なカフェで気軽におしゃべりを楽しむ交流イベントを開催しました。当日は初めて日本人会のイベントに参加される方もお迎えし、少人数ならではの和やかな雰囲気の中で、参加者同士の会話が自然と広がる楽しいひとときとなりました。

会場となったValbyのWildflower Caféは、地域コミュニティとのつながりを大切にしている温かなカフェです。子どもが遊べるスペースがあるほか、さまざまな文化や交流イベントも積極的に開催しており、私たち日本人会の活動も快く受け入れてくださいました。当日はスタッフの皆さまの親切な対応のおかげで、初めて顔を合わせる方々もすぐに打ち解け、ゆったりとした時間を過ごすことができました。

今回は、会場としてご協力いただいたWildflower Caféでマーケティング・イベントを担当されているSakutaさんより、当日の様子やカフェについてご紹介いただきます。



先日は、コペンハーゲン日本人会の皆さまにWildflower Caféをご利用いただき、ありがとうございました。当日はお茶を囲みながら、皆様でおしゃべりを楽しむアットホームな時間となりました。Wildflower Caféは、Valbyにある家族や地域のつながりを大切にしたコミュニティカフェで、普段からソーシャルランや、ファミリーディナー、日本食会など、さまざまなイベントも開催しています。また皆さまとお会いできることを楽しみにしています。



Kaho Sakuta
Hedengran

著者プロフィール

コペンハーゲン在住。Wildflower Caféでマーケティング・イベントを担当するほか、Nordic Japan Consultingとしてデンマークと日本をつなぐ視察・リサーチ・コンサルティングなどを行っています。

青空ピラティスに参加して



当日は晴れていて天気も良く、KONGSHAVEにはたくさんの方がいましたが、木陰にはピラティスを楽しむための心地よい空間ができていました。

先生がとても親切に指導してくださり、私自身、ピラティスを体験するのは初めてではありませんでしたが、このような屋外でのピラティスは初めてでした。

先生による一つひとつの動きの説明がとても分かりやすく、参加者一人ひとりに丁寧に指導してくださったことも良かったです。また、「肩が痛い」など、身体に不調や問題がある方にも、それぞれの状態に合わせて対応してくださっていました。ぜひ、また参加したいと思います。素敵な時間をありがとうございました。



著者プロフィール

ファッションデザインの勉強中。現在デザイン会社でインターシップをしています。

山川マイルウィッチなお美

日本人会の活動報告

BBQ

8月23日、シェランBBQ大会が開催されました。当日は雨の予報が出ており天候が心配されましたが、幸い雨の降らない時間帯も多く、参加者の皆さんと一緒に屋外での催しを楽しむことができました。

会場では、おいしいバーベキューに加え、日本人会から提供されたおにぎり、サラダ、バイクドポテト、お漬物が並び、参加者同士の会話も自然と弾みました。久しぶりに再会した方々はもちろん、初めて顔を合わせる方々も食事を囲みながら交流を深め、終始和やかな雰囲気に包まれていました。

また、デンマークで手に入る食材を使ったキムチ作りの実演も大変人気を集めました。海外での生活の中で培われた知恵や工夫が紹介され、多くの方が興味深そうに耳を傾けていました。こうした経験や情報を共有できることも、日本人会ならではの魅力だと感じます。

会場の庭では、ミラベルの実を使って梅干しのような保存食が作れるという話題が紹介されました。そこで子供たちと一緒に「梅干し探検隊」を結成し、庭のあちこちに実るミラベルを探しに出発しました。宝探しのような気分が夢中になって実を集める子供たちの姿はとても微笑ましく、大人にとっても楽しい思い出となりました。

さらに、広い庭を活用したオリエンテーリングも大変盛り上がりしました。大人と子供が混ざったチームを作り、協力しながら難問に挑戦しました。世代を超えて知恵を出し合い、励まし合いながらゴールを目指す姿があちこちで見られ、自然と交流の輪が広がっていきました。日本人会が人と人とのつながりを育む場であることを改めて実感する機会となりました。

天候の心配をよそに、多くの笑顔と温かい交流に恵まれたBBQ大会となりました。ご参加いただいた皆さま、そして運営にご協力いただいたボランティアの皆さまに心より感謝申し上げます。このような集いを通じて、デンマークに暮らす日本人の皆さま、そして日本に関心を寄せてくださる皆さまとのつながりがさらに深まっていくことを願っています。



土屋理恵

著者プロフィール
デンマーク在住37年。

日本人会の活動報告

FYN新春親睦会

今回、初めて親睦会に参加し、少し緊張していましたが、皆さんと交流する中で温かく心とむひとときを過ごしました。

レクリエーションでは皆さんで輪になってフォークダンスを踊ったり、ビンゴ大会に興じたり、チーム対抗で玉入れをしたりと、童心に返って楽しみながら皆さんと親睦を深めました。

昼食は各々が持ち寄った料理やおでん、つくたてのお餅など色とりどりの品を囲みながら、お互いの日々の暮らしや文化の違いについて語り合いました。

時には発音や数字の数え方など言語について教え合う場面もあり、興味深い話や学びの多い会話で終始賑やかな雰囲気になりました。

終盤にはスコリアさんによる三味線の演奏があり、その音色に耳を傾けていると、まるで日本にいるかのような感覚に包まれました。とても充実した時間で、あっという間に時間が過ぎました。

今回の新春親睦会を通して、日本に繋がりを持った様々な方たちと交流し、笑い合い、楽しい時間を共有できたことを心から嬉しく思います。

皆さんそれぞれが異なる背景やきっかけでこの地に暮らしていることを知り、大きな刺激と発見を得るとともに、日本の良さを改めて感じ、懐かしい記憶が蘇る、そんな心温まるひとときとなりました。



浅野さき

著者プロフィール

日本の石川県から来ました、浅野さきです。

日本では建築に関わる仕事をしていて、現在はコペンハーゲンで生活をしながら、デンマークの暮らしや文化を学んだり、新しい経験や出会いを楽しんでいます。

日本人会の活動報告

FYNBBQ

デンマークに来て4ヶ月、初めてこんなに多くの日本の方と交流することができました。BBQ会を企画していただき、本当にありがとうございました。初対面にもかかわらず、皆さんとても親切に接してくださり、楽しい時間を過ごすことができました。

自分が食べるものと、みんなでシェアするものをそれぞれ持ち寄るスタイルも新鮮でした。おはぎや焼きそばなど、普段デンマークではなかなか食べられないものもあり、懐かしい日本の味に思わず涙が出そうになりました。

イベントも盛りだくさんで、まさかデンマークでスイカ割りや盆踊りをするとは思いませんでした！子ども向けの企画でしたが、顕微鏡で見るプランクトンも面白く、いろいろなプランクトンを組み合わせで作った絵がとても綺麗でした。

さらに、デンマークでの生活に役立つ通販サイトや、デンマーク語学習についての情報も教えていただきました。長くデンマークに住んでいる皆さんの経験談も興味深く、納豆菌を日本から取り寄せて育てた話など、普段聞けないお話も伺うことができました。

主催してくださった皆さん、そして仲良くしてくださった皆さん、本当にありがとうございました！



じゅん

著者プロフィール
じゅんと申します。32歳の社会人留学生です。デンマークで薬の研究をしています。
旅行とゲームが好きです。

日本人会の活動報告

5月の花見会とBBQ会

この日は朝からお天気が良く会場までの道中、心ウキウキ!!

5月2日、Neesで例年どおり花見会を行いました。BBQ会場までの道のりでは、桜並木へ向かっておしゃべりを楽しみながら、ゆっくりと交流を深めました。

今年は寒さのためか、桜の花はちらほら。ふくらんだ蕾を見上げながら、「もう少し咲いてくれていたら」と名残惜しく思う場面もありました。

それでも、BBQ会場までの散歩は毎年の楽しみです。飛んだり跳ねたりしながら、心が弾むひと時となりました。

昨年同様、BBQマスターの素晴らしい手順で、我々参加者は各自の肉類を彼に任せきりでした。今年もおいしく焼いて頂きありがとうございました。其々の手作り料理をテーブルに、参加者のみなさんと心温まる食事会、食後はそれぞれ楽しくゲームを楽しんだり、西瓜割り、この西瓜割りはかれこれ18年前ユランの集いの活動が始まって以来、夏の遊びとして始めた日本伝統のゲーム。ここデンマークで参加者の皆さんはたのしんでくれています。大人もお子さんも楽しめる遊ばって歳をとってもいいものです♥今年の参加者は18人、この中には毎年ユランBBQ会の為に会場確保、日本庭園でゲーム遊び等を登美子さんのアイデアで、これも皆さんの楽しみの一つでしょう!登美子さんご夫婦には心から感謝しております。又グリルの準備から火付けそして肉、野菜他の食べ物を、我々の為に焼いてくれた健人君本当に疲れさま♥そして有難うございました。後片付けもしっかりやってくれ、彼に頼りっぱなしですみません!! 今からまた来春を楽しみにしております。ユラン半島は交通機関の不便な所ですが、皆さん遠方からの参加に、準備委員一同、毎度感激しております。それ故に参加者の皆さんが楽しんで頂けるような企画を考えておりますので、応援よろしくお願い致します。



著者プロフィール

ユラン半島在住52年、かれこれ20年ほど前までは、ユラン日本人会の活動は一切ありませんでした。当時の会長に談判し、やってくれる人が居ないとのことでそれじゃ〜と始めたのがシニヤ会、しかし集まったのは、年配者は勿論、若い方々も参加、それ以来ユラン・フン島の集いと呼び、会を楽しみにしてくれてる方々とエンジョイ♥今では若い方々のお手伝いを当てにして隠居参加者となっております。



君子ラウンセン

コリングブス博物館 (Koldinghus) ガイド付き見学の感想

(高井久光)



H.C.アンデルセンが描いたコリングブス廃墟(1830年頃、Kolding Stad-sarkiv)のご厚意により許諾を得て、提供いただいたスケッチの鮮明なコピーを掲載します。

8月1日13時博物館入り口前に集合。参加者14名。天気が良く心地よい夏日でした。駐車場から坂を上って入り口近くまで来たら、妻が杖を突いているのを見たからでしょう、切符売り場の下に在るゲートを開けてくれました。博物館職員の方たちは、皆さんとても親切でした。案内してくれたガイドさんは美術史が専門で、興味深い話や面白い話をたくさんしてくれました。1268年、エリック・クリッピング五世によって国の南部国境を守るために築かれ砦は、コリングフィヨルド最奥部の丘に在って、侵入者を威圧するほどの威容だったそうです。1500年代になると砦は軍事的重要性を失い、クリスチアン三世によって堀が埋められ、新しい翼棟が加えられてルネッサンス様式の城に変わりました。その後、何代かのキングによって改築改装され、王の城として使われました。しかし、フレデリック4世が死んだ(1730年)後は重要性を失い、コリングブスは長い期間放棄されたままになっていたそうです。この老築化した城に、ナポレオンの命によってスペインから来た援軍が宿泊していた時、1808年3月30日、大火事が発生しました。以後100年以上にわたりコリングブスは廃墟として丘の上にそびえていたそうです。この廃墟を近代建築技術によって再建・復活したのが、現在のコリングブス博物館です。新旧が調和した建物を見るだけでも訪問に値する博物館だと感じました。この20年以上かかった再建・復活事業(1972～93年)を担ったのは有名な建築家カップル Inger og Johannes Exner です。(一部ネット情報)



地下から3階まで吹き抜けの「遺跡ホール」。木材を貼り合わせた集成材の大きな柱は、半球状の鋳鉄製台座に据えられていました。

フィア・レベントローとの熱烈な恋物語をガイドさんから聞いて、当時の王族の生活や女性観などを垣間見たような気がしました。6)磁器“フローラダニカ”の展示。クリスチアン7世の誕生日(1803年1月29日)に使われた、美しいフローラダニカでセッティングされた、長いディナーテーブルが展示されていました。その他、よそでは見られないような素晴らしいフローラダニカを沢山見ることが出来ました。

ガイドツアーのあとしばらく自由に見学した後、近くにあるカフェ STAY Cafe に集まり、木陰のテーブルで楽しく歓談しました。今日のツアーに参加したデンマーク人会員の一人が「自分の遠い先祖はスペイン兵の血を引いているらしい。先祖がコリングフスの大火に関わっていたとは、...」と話してくれました。なんだか歴史を身近に感じる思いでした。廃墟から復活したコリングフスは、歴史に興味を持っている人だけでなく、建築に興味のある人にとっても訪問する価値がある博物館だと思いました。ツアーをアレンジしてくださった役員の皆さん、有難う!



教会ホール。ライトで美しく飾られたホールでは、間もなく結婚披露宴があるとのこと。正に生きた博物館!

1830年頃、ハンス・クリスチャン・アンデルセンは城池(Slotssøen)の畔で廃墟のスケッチをしていた時、地元の人々が廃墟からレンガを自由に持ち去って使っていることを発見しました。その後、アンデルセンは廃墟保存のために尽力しました。これがコリングフス復活に貢献したとされています。もしかしたら、コリングのどこかに、廃墟のレンガで建てられた家が現存しているかもしれない…。

ガイドさんが案内してくれたのは全部で6か所でした: 1)大きな外壁と池が見える博物館入り口。2)地下から3階まで吹き抜けの「遺跡ホール」。木材を貼り合わせた集成材の大きな柱は、半球状の鋳鉄製台座に据えられた振り子柱という構造(だと思う)で、屋根とブリッジ、階段、床など新たに追加された構造物を支えているらしいです。レンガの壁が崩壊するのを防ぐためのタイロッドだと思える太い鉄の棒も見えます。もし建築技術の知識があれば、見る箇所が沢山あるのだろうなと感じました。3)クリスチアン3世の礼拝堂。初めてデンマーク語に全訳された聖書(1550年)が印象的でした。4)クリスチアン4世が建築した高い天井の教会ホール。ライトで美しく飾られたホールでは、間もなく結婚披露宴があるとのこと。正に生きた博物館! 5)フレデリック4世のホール。フレデリック4世は、1711~12にかけてペストの流行から逃れて宮廷とともにコリングフスに移り住んだそうです。この時に開催された仮面舞踏会で出会った22歳年下、当時18歳のアンナ・ソ

マイルンの日常

#1



Hej!

この度、会報誌に4コマ漫画を連載させていただくことになりました、マイルン伊藤友理香です。

普段はフリーランスのグラフィックデザイナー・マンガ家として活動しています。また、今月号からは会報誌のレイアウトチームの一員としてもお手伝いさせていただいています。

会報誌にどんな漫画を寄稿するか悩みましたが、デンマークでの暮らしの中で感じたことや日々のちょっとした出来事などを、エッセイ漫画として描いていきたいと思っています。私の漫画を通じて、読者の皆さんにクスッと笑っていただけたら嬉しいです。

これまで日本からのご依頼を中心に活動してきましたが、これからはデンマークでも、デザインやイラストを通じてさまざまな方と一緒に活動する機会が増えたら嬉しいと思っています。何かお手伝いできることがありましたら、お気軽にご連絡ください。

E-mail : yurika.majlund@gmail.com

登場人物



ゆりか

好きなデンマーク料理
夫の作るPaprikagryde



夫

好きな日本の食べ物
秩父名物みそポテト、
焼き芋、ラーメン

デンマークで薬膳ライフ

光なき季節の養生 —— 腎の管理術

今年も確実に、北欧の冬が訪れようとしています。厳しい寒さに加えて限りなくゼロに近い日照時間。この地で冬を過ごす私たちにとってこの時期は、日本で暮らしていた頃以上に、自然界の大きなサイクルに寄り添いながら身体の内なるエネルギーを戦略的にマネジメントする視点が欠かせません。

なぜならその養生は単に今冬の寒さを耐え抜くにとどまらず、年齢とともに訪れる身体の変化に寄り添い、未来の健やかさを守る——すなわち抗老化（アンチエイジング）に深く結びつくからです。今回は、生命の根本エネルギーを司る腎の仕組みと、冬の養生法を紐解いていきます。

生命エネルギーの保管金庫と統括責任者

人間の体は一つの国家であり、体内の五臓六腑を国家運営機関の責任者と捉える中医学（中国伝統医学）において、生命の根幹として重要視されるのが腎（じん）です。

腎とは、西洋医学が指す腎臓（排泄器官）の枠組みを大きく超えた概念で、私たちひとりひとりが持つ生命の根本エネルギーを保管する金庫であり、同時にそのエネルギーを運用して生命活動と成熟のプロセスを統括する責任者でもあります。

この金庫を大切に扱い運用するか、無頓着に浪費してしまうか——それが、生涯の生命力の充実度や、加齢による衰えのスピードを左右すると考えられています。金庫の中身が潤沢であれば、骨や歯は強く、耳は明瞭に音を聴き、髪は艶やかに保たれ、意欲や気力も充実します。反対に、腰や膝のトラブル、耳鳴り、白髪、物忘れといった加齢のサインは、金庫の中身が目減りするだけでな

く、それを漏らさず統率する腎の力そのものが弱まった結果でもあります。本質的なアンチエイジングとは、資産を守ると同時にその管理能力を養うことなのです。

ひとりひとり異なる、体の資産と運用法

では、この腎の金庫に保管されているエネルギーはどこからやってくるのでしょうか。大きく分けて二つの要素で構成されています。

一つは、親から受け継いだ生命の原資とも言える生まれ持ったエネルギーで、量や質には個人差があります。もう一つは、生まれた直後から一生続く食事や睡眠、運動などの養生によって絶えず生み出される、いわば利息のようなエネルギーです。

初期資本が潤沢な人は多少の無理もききますが、不摂生を続ければ資産は早々に消耗します。反対に原資が少なくても、日々の養生によって収入を補い続ければ健やかさを長く保つことが可能だとされています。

自らの保有資産を正しく把握して浪費を抑え、日々の養生で新たなエネルギーを補い続けること——それこそが、中医学的アンチエイジングのマネジメント法です。規則正しい睡眠や下半身を冷やさない工夫、体質に寄り添った食事を摂る毎日の習慣こそが欠かせない養生となります。そのために最も重要な季節が、冬なのです。

冬 —— 閉蔵の季節の腎養生

冬は、自然界の万物がエネルギーを内に閉じ込める、閉蔵（へいぞう）と呼ばれる季節です。厳しい寒さで生命力を削られないように、動物たちは冬眠し、樹木は葉を落として根にエネルギーを凝縮させ、静かに春の芽吹きを待ちます。自然界の



【冬の腎養生】 黒糖くるみ生姜

材料

殻を剥いたくるみ	100g
皮付き生姜	20g
黒砂糖	100g
水	大さじ1

作り方

1. くるみは150℃のオーブンで約15分、香ばしくローストします
2. 生姜をよく洗い、汚れた部分を取り除いてから皮ごと薄くスライスします
3. フライパンに生姜、黒砂糖、水を入れて中火にかけ、砂糖が溶けてぶくぶくと全体が泡立ち盛り上がってきたら、くるみを加えて一粒一粒に砂糖が絡まるように手早く混ぜます
4. オープンシートに重ならないように広げ、完全に冷めて表面が乾いたら密閉容器に入れて保存します

※保存は常温で約1週間
※1日に10粒までが目安

体を温めながら生命力の貯蔵庫にもやさしく働きかける、手軽な冬の養生おやつです

一部である人間もまた自然に倣い、エネルギーの発散や消耗を控えて、体力の温存に努めるべき時期です。

この時期の夜更かしや、激しい運動による大量発汗、精神的な消耗は、本来なら体内に蓄えておくべき生命の原資や熱を外へ漏らす行為にほかなりません。来たるべき春や夏の資金を前借りして使い果たすようなもので、散財したエネルギーを再び満たすには大変な時間と養生が必要なため、体の衰えが加速することになります。

具体的には、次のようなリスクがあるとされています。

- 免疫力の低下、感染症へのかかりやすさ
- 白髪や抜け毛、骨密度の低下、耳鳴りなど加齢現象の早まり
- 日照不足による気分の落ち込みや不安感の増幅
- 春以降に残る倦怠感や、気血のめぐりの乱れ

腎を補う食材たち

冬やアンチエイジングの話題になると、黒豆や黒ごまなどの黒い食材が注目されます。これは、五行学説において黒色が腎を補う色と定義されているためです。

しかし薬膳の視点では、見た目の色だけではなく味や効能の観点も加え、下記のような食材が冬の腎を支える味方となります。

- 黒豆、黒ごま、海藻類、きのこ類
- くるみ、スパイス、ベリーのジャム、酒（少量）
- 鹿肉、羊肉、豚肉、ボーンブロス

とはいえ、これらの食材はやみくもに食べればよいわけではありません。胃腸でしっかり消化吸収されてこそエネルギーに変わるため、食材を適切に組み合わせ、補う料理として仕上げるのが大切です。

北欧の食材を活かした冬の薬膳

実は、デンマークの冬の食卓に並ぶ料理は、中医学・薬膳の観点から見ても非常に理にかなった養生食です。食材自体の効能に加え、時間をかけてじっくり熱を通す調理法が、食材の温める力を引き出し、胃腸での消化を高めて腎のエネルギーを補ってくれます。

- Gløgg：身体を芯から温め、血のめぐりを促します。ただし飲みすぎはかえってエネルギーを漏らすことになるため、ほどほどに。

- Flæsksteg や Andesteg：身体の潤いとエネルギーを強く補ってくれます。

- Brunede kartofler, Rødkål, Stegte æbler：肉の消化を助け、胃腸の負担を和らげながらエネルギーを底上げします。

過酷な冬を乗り切るために先人たちの経験から生み出されたデンマークの薬膳料理。今年の冬はぜひ、新たな視点を添えてお楽しみください。

インテリアとライフスタイル

腎のマネジメントは食事だけに留まらず、住環境や過ごし方といったライフスタイル全体とも

密接に関わっています。

現代人の多くは、頭脳労働やスマートフォンの長時間使用により意識や体の熱が頭部に集中し、神経が興奮状態にあります。中医学では、過度な思考や精神の酷使は頭部を過熱させ、その熱が腎の潤いやエネルギーを蒸発させると考えます。だからこそ冬の室内環境には、身体を冷やさず脳の興奮を鎮める静の空間設計が求められます。

ウールやムートンの柔らかな肌触り、木のぬくもりを感じる家具、キャンドルの炎の揺らぎは、視覚や触覚からの刺激を抑え、高ぶった神経を深くリラックスさせてくれます。私たちが魅了される北欧のインテリアは、見た目の美しさだけでなく、長い歴史の中で磨かれてきた本質的な養生術でもあったのです。

また、早朝四時からなど早すぎる時間帯の活動も、腎のエネルギーを大きく消耗させます。冬の間は睡眠時間を春夏よりも長く確保して、ゆっくりと活動を開始することが望ましい過ごし方です。

養生のうえでは、冬は外に飛び出して何かを掴み取りに行く季節ではありません。暖かな家の中で、大切な人と穏やかな時間を分かち合うことこそが、自然のリズムと同調してエネルギーの源泉である腎を養い、ひいては健やかさを重ねていくことへと繋がります。

腎の管理の先にあるもの

生まれ持った腎という金庫の容量そのものを、後から大きくすることはできません。けれども日々の暮らしでの少しの意識と養生によって、エネルギーが漏れ落ちるのを防ぎ、減衰の傾きを穏やかにすることは十分に可能です。

光が少なく冷え込む北欧の冬は、身体の深部に静かにエネルギーを蓄えて未来の自分へ投資するための絶好の養生シーズンでもあります。ぜひ日々の食卓と暮らしの中に腎をいたわる管理術を優しく取り入れ、心身ともに満たされた豊かな冬をお過ごしください。

PROFILE

高見節佳（たかみせつか）

国際中医師、国際中医薬膳師

兵庫県芦屋市にて10年以上薬膳料理教室を主宰。国際資格合格者も多数輩出。2020年コペンハーゲン移住。Yakuzen Apothecary & Kitchen を設立。北欧で唯一の、対面式での本格的な薬膳資格講座および薬膳料理教室などを開催。北欧の暮らしに寄り添う薬膳料理も研究中。

ホームページ：

<https://yakuzen-apothecaryandkitchen.com/>



2026年6月 フィールドワーク余滴——都市・インフラ・植民地主義

高橋美野梨(北海学園大学)



写真1 2026年6月15日、筆者撮影

2026年6月、約2週間の日程で、コペンハーゲンとグリーンランド・ヌークにてフィールドワークを行った。今回も多くの課題を携えての渡航だったが、その一つは、両地域を結ぶインフラストラクチャーに着目し、それらが単なる物理的構造物ではなく、人・モノ・場所の関係を組織し、多様なネットワークを形成する媒介として機能していることを、自らの目で見て、考え、確かめることにあった。

僕はインフラや都市計画の専門家ではない。インフラが都市空間のなかでいかに位置付けられ、いかなる役割を果たしているのかについて、特定のディシプリンに依拠した知識や方法論を備えているわけでもない。しかし、既存の専門領域の境界を越え、地域の全体像を統合的に捉えようとする地域研究の地平に立ちたいと願う研究者としての僕にとって、こうしたフィールドワークには固有の意義があると考えている。現地を歩き、観察し、事象同士の結び付きを探る営みは、それ自体が直ちに検証可能な仮説や説明変数を提示するわけではない。

それでもなお、因果的推論へとつながり得る興味深い事実や関係性の存在に「気付く」契機となる(かもしれない)からである。その意味で、現場での経験は、僕にとって欠くことのできない営みである。

今回のフィールドワークにおける収穫の一つは、コペンハーゲンのクリスチャンスハウン地区に集積するインフラ群の観察を通じて得た、時間軸を越えて機能するインフラの重層性の発見だった。それらは、デンマーク(デンマーク=ノルウェー同君連合)が宗主国として統治してきた北大西洋海域の諸地域、すなわちグリーンランド・アイスランド・フェロー諸島などからなる広域的な利害圏と結び付いた歴史を刻むものだった。

この点については、『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための67章(第2版)』(明石書店)の「序文」で扱ったので、ぜひお読みいただきたい。

ここでいうインフラ群とは、18世紀以降、デンマークが北大西洋地域で植民地交易を展開した際に中枢をなした旧倉庫群(写真1、2)や、メトロ・クリスチャンスハウン駅を上がってすぐのところに置かれているモニュメント群(写真3)などを指している。

前者は、デンマークが北大西洋地域との交易を独占・管理し、その支配を支える物流のハブとして機能した場所だった。他方、後者は1930年代に制作された記念碑で、当時なお植民地下にあったグリーンランドの人々の「伝統的」な生活世界を、植民者のまなざしを通して写實的に表象したものだった。さらに、このモニュメント群は、その解釈をめぐる議論の余地を残しつつも、グリーンランドをめぐる政治的・社会的論争が国内外で生じるたびに、「グリーンランドはデンマークの一部である」という言説を再活性化させる象徴的装置として機能してきた側面もあった。



写真2 2026年6月16日、筆者撮影

しかし、今回のフィールドワークを通して、これらのインフラ群は、その背後にある植民地主義の歴史をほとんど不可視化したまま、日常的な都市空間の風景として受容されているように映った。観光客が写真を撮り、ときには何気なく通り過ぎ、市民は待ち合わせをし、人々は腰を下ろして休憩する。そこには、植民地支配の歴史を刻んだ場所であることを強く意識させる雰囲気はなく、むしろ歴史は都市の日常へと溶け込み、その存在を容易には意識させないものとなっている。

もちろん、今日、これらのインフラ群が市民の日常生活に内面化された都市空間として機能していることは、その歴史的意味や、そこに刻まれた植民地主義に由来する非対称な権力関係を消し去るものではない。むしろ、アビルゴーとガド(注1)が論じるように、インフラシステムとは「長い現在(long now)」のなかで持続的に変容し続ける存在であり、当然ながら、一度構築されて終わる固定的な人工物ではない。そして、一度構築されたインフラは、当初の設計や意図を超えて、新たな論理のもとで絶えず再解釈(rearticulation)される可能性を内包している。

そう考えるならば、かつての宗主国が植民地支配と資源の抽出を支えるために構築したインフラは、現代を生きる人々の日常を通して、別の文脈へと再定位され、新たな意味を獲得する可能性を有しているといえる。

しかし、繰り返しになるが、そのことは植民地主義が「終わった歴史」となったことを意味しない。むしろ植民地主義は、私たちの日常的な諸実践を媒介するインフラの作動過程そのものに織り込まれたかたちで、現在にも作用し続け得るものである。今日におけるデンマークとグリーンランドとの(多様な意味での)非対称な関係は、その現在性を考えるうえで示唆的である。

そうした植民地主義が、いかなる社会的文脈のなかで再編され、その植民地的来歴を可視化する契機となり、あるいは社会的関心の埒外へと置かれることで再び不可視化されるのか。その動態を、フィールドワークを重ねながら考えていきたい。

執筆者紹介

高橋美野梨

北海学園大学法学部政治学科准教授。博士(国際政治経済学)。近著に『グリーンランド—人文社会科学から照らす極北の島〈増補新版〉』(編著、藤原書店)、『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための67章【第2版】』(中丸禎子・小澤実との共編著、明石書店)など。



写真3 2026年6月17日、筆者撮影

(注1) Abildgaard, Mette Simonsen and Ulrik Pram Gad (2026). "The Politics of Connections in Greenland: A Typology of Imperial and Post-colonial Infrastructure Logics". *Geopolitics*. Published online: 30 Apr 2026.

なかなか手が届かない海底資源(後編)

小栗一将

はじめに

皆さんこんにちは。南デンマーク大の小栗です。「大学では、一年生向けの研究と実験に基づいた講義を担当しつつ、水深6000mを超える超深海の環境を調べたり、観測機器を作ったり、酸素の可視化技術を応用した、生物と環境の関わりについて研究を進めています」と自己紹介しますと、大多数の方はなんのこっちゃ?と思われるかもしれません。理学系の研究には、社会や経済とは直接関係のないものが多いため、これらを意識しながら紹介することは容易ではありません。このためか、科学好きな人たちには面白がってもらえても、世間にはなかなか伝わりません。現代の研究や開発には、社会への有用性、経済性、そして即効性が求められています。理学系の基礎研究には、これらとは縁のないものが多いため、浮世離れしている印象を受けられるかもしれません。そんな研究の意義はどこにあるのか?という問いは昔から存在します。夏目漱石の小説『草枕』は「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。」という有名な一節から始まりますが、基礎研究に携わる者にとって、この一節は世間と自分たちの研究とのずれを否応にも認識させます。ぼやきはさておき、今回は、なかなか手が届かない海底資源(後編)をお届けします。前々回と前回には、それぞれ日本近海の海底深くに埋まっているメタンハイドレートと、やはり日本の排他的経済水域(EEZ)内の深海底に広く分布するマンガンノジュールについて解説しました。今回ご紹介するのはコバルトリッチクラストと、海底資源のラスボスともいえる今話題のレアアース泥です。前号記事の図2に、これらの資源が分布する海域を示していますので、こちらも併せてご覧いただきながらお楽しみください。

コバルトリッチクラスト

コバルトは単体では銀白色を呈する金属で、磁力の強い磁石、切削工具のように硬い金属やジェットエンジンの部品のように高温下で使用する金属を作る際に不可欠な元素です。近年では、スマホや電気自動車などに使われるリチウムイオン二次電池の陽極材料としての需要も増加しています。しかし、コバルトの主な産出国であるアフリカのコンゴ民主共和国が、自国の資源利益と国内産業の保護のために厳しい輸出制限政策を進めたことから、価格が上昇しています。近年、この貴重なコバルトを含む海底資源が、日本のEEZ内、南鳥島沖付近の海域にたくさん存在していることが明らかになってきました。

西部北太平洋には、深海5000-6000mからそびえ立つ海山が分布しています。この海山の水深800-5500mの範囲に、海底を覆うような黒い物体が見られます(図1)。この物質はコバルトリッチクラストと呼ばれ、高濃度のコバルト(多いもので1%以上)や白金をはじめとする貴重な金属が含



図1 JAMSTECの無人探査機「かいこうMk-IV」によって南鳥島沖、水深4500mで撮影されたコバルトリッチクラスト。| 海洋研究開発機構の許諾を得て、<https://www.jamstec.go.jp/j/pr/topics/quest-20160622/>より引用(©JAMSTEC)

まれています。コバルトリッチクラストは100万年に1~6 mm という非常にゆっくりした速度で成長して形成されたもので、その厚さは20cmを超えることがあります。ちなみに南鳥島沖海域のコバルトとニッケルの埋蔵量は、日本の年間消費量に換算して、それぞれ約88年分と約12年分に相当すると見積もられています(石油天然ガス・金属鉱物資源機構, 2020)。現在、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が、所有する海洋資源調査船「白嶺」を使ったコバルトリッチクラストの採掘に関する調査研究を行っています。

なぜ、コバルトリッチクラストは南鳥島付近の海山から見つかったのでしょうか?これらの海山は、1.6億年前に、現在のタヒチあたりに存在した中央海嶺上で生まれたと考えられています。これが途方もない長い年月を経て、プレート運動によって現在の位置まで移動してきたのです。太平洋の真ん中には、陸からの堆積物もほとんど供給されません。また、プレートの水深は大陸に近づくにつれ深くなります。そして、この水深の海水中には、溶存する金属を酸化物にする酸素が豊富に溶け込んでいます。詳細はまだ明らかではありませんが、コバルトリッチクラストは、このような環境で非常に長い年月をかけてゆっくりと形成されていったと考えられています(鈴木編, 2018)。

レアアース

最近、レアアースに関するニュースをよく見かけます。レアアースは日本語では希土類と呼ばれますが、この名が示す通り産出量は多くありません。図2に、元素周期表を示します。中学や高校の理科や化学の授業では、周期表の上位の元素を暗記した思い出があるかと思います。レアアースは周期表の中でも下の方に存在しているランタノイドという元素群に、イットリウムとスカンジウムを足したもので全17種ありますが、そのほとんどは授業の暗記の対象に

入っていないため、元素名が浮かぶ人は多くないかも知れません。地球上でいちばん多い元素は酸素で、次に多いのはケイ素ですが、地殻表層におけるレアアースの数は、ケイ素元素100万個に対して1個から100個しか存在しません（U.S. Geological Survey, 2002）。ちなみに貴金属と呼ばれるパラジウム（銀歯や触媒の材料）、金や白金など（宝飾品、半導体、触媒の材料）はもっと少なく、0.001個から0.00001個しかありません。レアアースはあまり知られていない元素でしたが、現代のハイテク産業、たとえばモーター、コンピュータ、光学部品といった製品の製造に不可欠なため、近年大きな脚光を浴びています（表）。では、レアアースはどのような場所で採掘されているのでしょうか？

陸上のレアアース鉱山

レアアースの主要生産国は中国で、世界の生産量の7割を占めています。なかでも内モンゴル自治区のバヤンオボ（白雲鄂博）鉱山には、世界の埋蔵量の2割にあたるレアアースが眠っていると見積もられています（石原・村上，2006）。レアアースの鉱床は中国のほか、ロシア、ブラジル、ベトナム、オーストラリア、アメリカ、カナダ、タンザニア、南アフリカといった国にも存在します。また、デンマークのグリーンランド南部のクバネフェルド（Kvanefjeld）やクヤレック（Kujalleq）にもレアアースやウランを含む鉱物が豊富に含まれる地層が確認されており、これがアメリカがグリーンランドの領有に食指を伸ばすといった国際政治にまで影響を与えています。

世界のレアアース鉱山は、地殻の深部で長い時間をかけてマグマが固まって形成したアルカリ花崗岩という岩石や、火成岩が地下深くで高い温度や圧力を受けて変成した岩石が分布する場所に存在します。これらの岩石の鉱物中に含まれるレアアースの起源は、地下深部のマントルに由来すると考えられています。グリーンランド南部クバネフェルドのレアアースを含む地層は、12億年前のマグマ活動によって形成された火山岩によって形成されました。レアアースは、マグマが冷却して鉱物が結晶化した際に濃集したと考えられています。中国のバヤンオボ鉱山の場合、カーボナタイトと呼ばれる炭酸塩を主成分とする珍しい火成岩がレアアースの起源です（図3）。

もうひとつは、これらのレアアースを含む岩石が風化して、鉱物が濃集して形成された鉱床です（石原・村上，2005）。中国にはアルカリ花崗岩が風化して形成された鉱床があり、オーストラリアにはカーボナタイトが風化して形成された鉱床

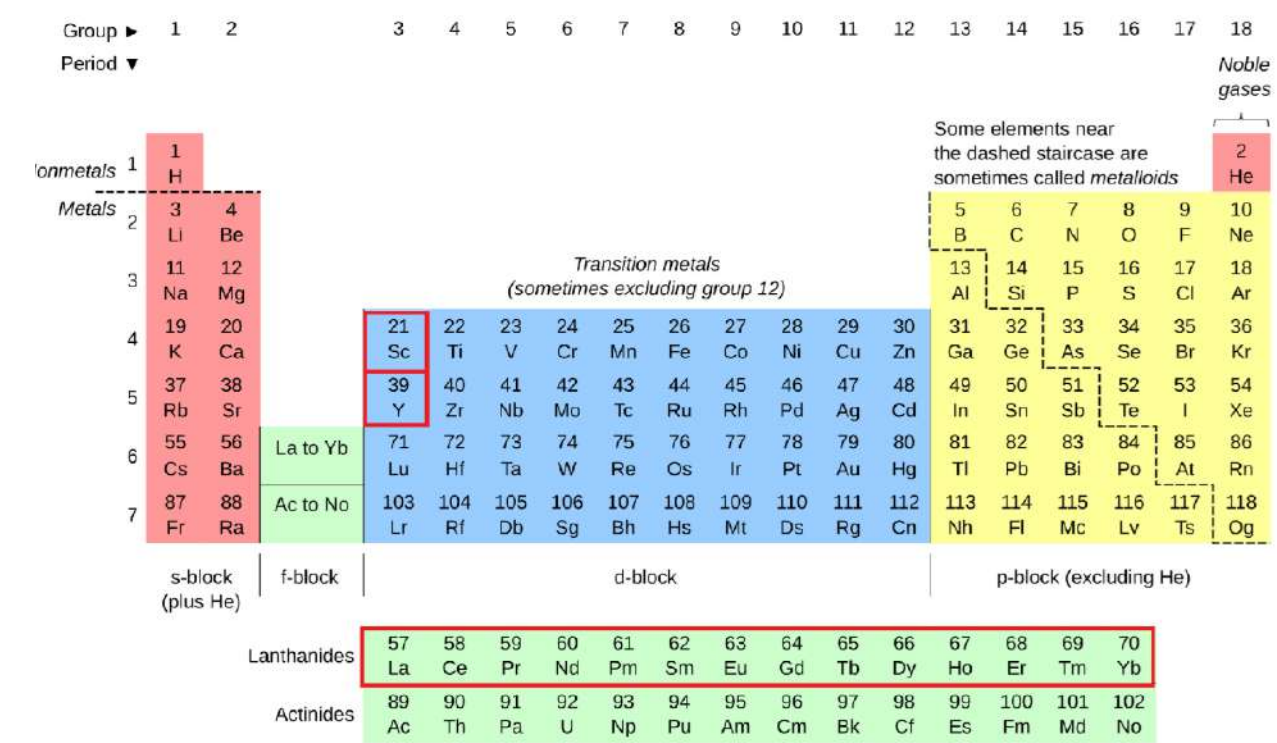


図2 元素周期表。レアアースは赤い四角で囲んだ元素。



図3 バヤンオボ鉱山の露頭写真。Huang et al. (2024)より引用。

がそれぞれ存在します。レアアースが雨水に溶け出し、これが粘土鉱物と呼ばれる細粒の粒子に吸着して形成する、イオン吸着型の鉱床も存在します。地上で産出するレアアースを含む鉱物には、他の重金属やウランやトリウムといった放射性元素も含まれます。レアアースを精錬したあとの残滓にはこれらの厄介な物質が濃集するため、レアアースの資源開発と環境問題は切っても切り離せない関係にあります。

海底のレアアース泥

2011年、東京大学の加藤泰浩教授らのグループが、太平洋の深海水深3000-6000mの堆積物中に、イットリウムをはじめとする高濃度のレアアースを含むものが存在することを発見しました（Kato et al. 2011）。さらに2012年、加藤教授のグループは日本のEEZ内である、南鳥島沖の水深5600-5800mの海底面下3-10mの堆積物中に、大量のレアアースが含まれている層が存在していることを突き止めました（加藤，2012）。この泥に含まれるレアアースの濃度は最大で6500ppm（乾燥重量にしてなんと0.65%）に達します。資源が眠ると有望視される2500km²の海域にこの泥が存在すると仮定すると、レアアースの総量はなんと約1600万トンと見積もられます（海洋研究開発機構・東京大学，2013）。さらに、海底のレアアース泥には、陸上で産出するレアアース鉱物と異なり、ウランやトリウムなどの放射性物質がほとんど含まれていない、という特徴があります。なぜ、高濃度のレアアースを含む泥が南鳥島沖の海底面下に分布するのでしょ

うのでしょうか？
この層を構成する粒子を調べたところ、魚の歯の化石が多く含まれていることが分かりました（図4）。魚の歯はリン酸カルシウム（アパタイト）という物質ですが、分析の結果、この物質が長い年

濃集していったことが明らかになりました（Kashiwabara, et al. 2014; Iijima et al. 2016）。では、なぜ特定の泥の層の中に魚の歯が濃集しているのでしょうか？年代測定の結果、この泥の層は今から3440万年前に堆積したことが分かりました。現在の南鳥島付近の海洋プレートは、この時代には太平洋の真ん中にありました。ここは陸から離れており、水深も深いため、鉱物粒子もほとんど到達せず、水中のプランクトンが作る炭酸カルシウムの殻も、低い水温と高い圧力によって溶けてしまうため、物質がほとんど堆積しません。このような環境のなかで魚の歯がレアアースを吸着していったわけですが、なぜこの時代の層にだけ魚の歯がたくさん含まれているのでしょうか？この時代は、南米が南極大陸から切り離されることで海洋の循環が変わり、地球が寒冷化したことが分かっています（連載第5回の図6をご参照ください）。理由ははっきりしませんが、この時期に太平洋の真ん中で魚が増えた原因に、海洋の寒冷化に伴う生態系の変化があったのではないかと考えられています（Ohta et al. 2020）。

レアアース泥の採掘は現実的か？

2026年2月、海洋研究開発機構は地球深部探査船「ちきゅう」（図4）を使ったレアアース泥の採取実験を行いました。本来「ちきゅう」は、学術研究のためにボーリング用のドリルコアを深海底に挿して、海底の堆積物や岩盤を採取する目的で開発された学術研究船なので、レアアース泥の採取には向いていません。そこで、掘削装置を石油や天然ガスの掘削に使用する「閉鎖型泥水循環」方式に改造しました。この方式は、二重構造になったパイプの先端部分にプロペラを付けた採鉱機を海底に降ろしたあと、まずプロペラを回転させて泥を細かくしながら内側のパイプから海水を注入して泥水を作ります。そして、発生した泥水を外側のパイプに通して船上に汲み上げます。2026年2月、「ちきゅう」は、この方法で南鳥島沖の海底からレアアース泥を回収するのに成功しました（科学技術振興機構，2026）。

コバルトリッチクラストやレアアース泥の分布調査や採取方法の開発については、日本では内閣府が主導する戦略的イノベーション創造プログラムによる、大規模な国家プロジェクトとして研究が進められています。一方で、深海に存在する資源の採掘と産業化を達成するには、水圧、距離、精錬、そしてコストといった幾重もの高い壁を超えなければなりません。内閣府は、2027年2月に「ちきゅう」を使って一日あたり350トンのレアアース泥を採取する実証試験を行うと発表しました（内閣府，2026）。しかし、もし南鳥島沖のレアアース泥の採掘を商業化するとしたら、これよりはるかに多くの泥を採取し続けなければなりません。しかも、環境負荷の少ない精錬方法をこれからどう確立するのか？という根本的な問題は未解決なのです。さらに、本土から1600km以上も離れた南鳥島沖から日本の本土に泥を運んで精錬まで行ったらコストはどうなるのか？といった評価もまだこれからです。おそらく、海底からレアアース泥を採掘できたとしてもコストがかさむので、中国などから購入した場合の価格とは勝負にならないでしょう。



図4 レアアース泥に含まれる魚の歯。
（Ohta et al. 2020より引用）



図5 地球深部探査船「ちきゅう」。
海洋研究開発機構の許諾を得て引用。

表 主なレアアースの用途（石油天然ガス・金属鉱物資源機構，2024による）

レアアース	元素記号	用途
セリウム	Ce	研磨剤、自動車用排ガス触媒、鉄鋼・アルミ添加剤、ガラス添加剤
ランタン	La	触媒、レンズ、ニッケル水素電池、鉄鋼・鋳造添加剤、蛍光体、研磨剤
ネオジム	Nd	ネオジム磁石、触媒、ガラス添加剤、ニッケル水素電池、コンデンサ
イットリウム	Y	ジルコニア安定剤、蛍光体（赤）、光学ガラス
プラセオジム	Pr	磁石、セラミックタイル発色剤（黄）、ガラス着色剤（緑）、コンデンサ
ガドリニウム	Gd	磁石、光学ガラス、蛍光体（緑）、放射線遮蔽剤（医療、原子炉他）
ジスプロシウム	Dy	ネオジム磁石
サマリウム	Sm	サマリウム・コバルト磁石
エルビウム	Er	ガラス添加材
ユーロピウム	Eu	蛍光体（青・赤）
テルビウム	Tb	蛍光体（緑）、磁石

現在、このレアアース泥の分布や濃度、資源としての有用性といった研究が継続して行われていますが、これらの研究は、いわば日本という国の地図を作る作業であると言えます。しかし、これだけでは海底からの採掘や精錬、コストの問題は簡単には解決しません。現状は、採掘に関する技術は進展しているとはいえ、商業化には依然として多くの課題が残されている状態にある、といえます。

おわりに フリッツ・ハーバーによせて

第一次世界大戦中(1914-1918)、ドイツの化学者フリッツ・ハーバー(1868-1934)は毒ガスを開発しました。これにより膨大な数の兵が亡くなりました。彼は大战前、カール・ボッシュ(1874-1940)と共に大気中の窒素と水素から、肥料の原料となるアンモニアを製造する技術(ハーバー・ボッシュ法)を開発していました。戦後、ハーバーは毒ガス開発者の誹りを受けつつも、アンモニアの製造が天然資源に依存せず肥料を製造する道を開き、人類が飢餓から解放された、という功績によってノーベル化学賞を受賞しました。また、彼は海水中に溶存する金属の濃度を調べ、海水から金を取り出す研究を行いました。ハーバーがこの研究を進めた背景には、実現すれば第一次大戦の賠償金を支払うことができるかも知れない、というドイツへの愛国心がありました。しかし、当時最先端の観測船を使った調査研究の結果、海水中に溶存する金の濃度は著しく低く、とても商業化できるものではないことが判明しました。ユダヤ人であったハーバーは、晩年にドイツを離れイギリスのケンブリッジ大学に勤めましたが、ナチスがドイツの政権を取った1年後、滞在先のスイスで亡くなりました。

海洋から微量金属を抽出してこれを商用化する研究は、ハーバーの時代から数しれません。しかし、そこには必ず効率とコストの問題が立ちはだかりました。喉から手が出るほど欲しい資源が自国のEEZの海底に眠っていることは国民にも政治家にも大変魅力的な話ですが、埋蔵量の調査や採取技術の検討という基礎研究は継続しつつ、採取を阻む壁という現実を冷静に見つめることも必要です。浮世離れしているように見えるかもしれない理学系の仕事には、物事を客観的な視点で見極めるための科学リテラシーの向上という、容易でない使命もあるのではと思いつつ、なかなか手が届かない海底資源のお話を締めくらせていただきます。

著者紹介

小栗一将(おぐり かずまさ)
ogurik@biology.sdu.dk

南デンマーク大学自然科学部生物学科。この9月よりPrincipal Technical Developerとして、同学科で超深海の研究を専門とするDanish Center for Hadal Research (HADAL)と、地球環境と微生物の関わりなどを研究するNordceeに引き続き勤務。国立研究開発法人海洋研究開発機構・アドバイザー。

引用文献

Huang et al. (2024) New discovery of the Early Paleozoic carbonatite in Bayan Obo (China): Insights into the giant REE accumulation. Ore Geology Reviews, 170, 106156. <https://doi.org/10.1016/j.oregeorev.2024.106156>

Iijima, K. et al. (2016) Discovery of extremely REY-rich mud in the western North Pacific Ocean. Geochemical Journal, 50(6), 557-573. <https://doi.org/10.2343/geochemj.2.0431>

石原舜三・村上浩康(2005) いまレアアースが面白いーイオン吸着型鉱床は将来の高度先端産業を支えられるか? 地質ニュース, 609, 4-18.

石原舜三・村上浩康(2006) レアアース資源を供給する鉱床タイプ. 地質ニュース, 624, 10-29. https://www.jamstec.go.jp/sip/pdf/resultList2018_c.pdf

科学技術振興機構 (2026) 南鳥島EEZでレアアース試掘に成功 深部探査船「ちきゅう」活用. Science Portal. https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20260206_n01/

海洋研究開発機構・東京大学 (2013) プレスリリース南鳥島周辺における超高濃度レアアース泥の発見とその分布概要(南鳥島調査航海について). https://www.jamstec.go.jp/j/about/press_release/archive/2013/20130321.pdf

Kashiwabara, T. et al. (2014) Determination of Host Phase of Lanthanum in Deep-sea REY-rich Mud by XAFS and μ -XRF Using High-energy Synchrotron Radiation. 43(2), Chemistry Letters, 199-200. <https://doi.org/10.1246/cl.130853>

Kato, Y. et al. (2011) Deep-sea mud in the Pacific Ocean as a potential resource for rare-earth elements. Nature Geoscience, 4, 535-539 (2011). <https://doi.org/10.1038/ngeo1185>

加藤泰浩 (2012) 太平洋で発見されたレアアース泥の特長と開発可能性. 建設の施工企画, 12(10), 59-64.

内閣府 (2026) https://www8.cao.go.jp/ocean/policies/kaiyo_wg/1kai/pdf/shiryo_other.pdf

Ohta, J. et al. (2020) Fish proliferation and rare-earth deposition by topographically induced upwelling at the late Eocene cooling event. Scientific Reports, (2020) 10:9896, <https://doi.org/10.1038/s41598-020-66835-8>

石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (2020) 世界初、コバルトリッチクラストの掘削試験に成功～海底に存在するコバルト・ニッケルの資源化を促進～.

石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (2024) 鉱物資源マテリアルフロー2024 7. レアアース(REE). <https://journal.jogmec.go.jp/content/300601767.pdf>

鈴木勝彦 編 (2018) コバルトリッチクラストの成り立ち-調査方法の確立に向けて-改訂版. 海洋研究開発機構 戦略的イノベーション創造プログラム 次世代海洋資源調査技術研究開発成果資料 Vol. 2. https://www.jamstec.go.jp/sip/pdf/resultList2018_c.pdf

U.S. Geological Survey (2002) U.S. Geological Survey Fact Sheet 087-02. <https://pubs.usgs.gov/fs/2002/fs087-02/>

デンマークの気になるお店紹介

Fra reggae til japansk køkken: Mød restaurantchefen bag Posh Jah

Af Megumi Yamakawa, foto og redigering
af Naomi Yamakawa Meyrowitsch

Vi har interviewet Sigurd, der er bestyrer på den populære japanske restaurant "Posh-Jah". Selvom vi omtalte deres første restaurant, "Jah-Izakaya", i vores medlems-blad for fire år siden, har de siden åbnet endnu en afdeling – et stilfuldt sted, hvor jeg personligt har haft fornøjelsen af at spise ved flere lejligheder. Tak til Sigurd, fordi han venligt tog sig tid til at tale med os. Her bringer vi interviewet på det originale dansk.

人気の日本料理店,"Posh-Jah"の店長/マネージャーであるシグアードさんにインタビューをしました。4年前に1号店である"Jah-Izakaya"の紹介は会報誌に載っていますが、2号店が出来、また別のおしゃれな雰囲気のお店で私も何回か食事をさせてもらってました。早く、時間を取ってくれたシグアードさん、ありがとうございました。デンマーク語のインタビューでそのまま載せます！

Hvad betyder restaurantens navn, og hvorfor valgte I det?

Sigurd: Vi har haft "Jah Izakaya" i 10 år. Jah spiller, udover at spille lidt på japansk og "Jahne" og så videre, også på den musik, vi spiller, som er reggae. Jah er ligesom "the reggae Jehovah", altså guden i reggae. Så det er et spil på det. Da vi åbnede nummer to i Indre By og kaldte den "Posh Jah", var det først og fremmest selvironi. Vi havde Jah på Vesterbro ved Istedgade, og nu åbnede vi nummer to Jah inde i byen, i Borgergade, i et kvarter, som nogle ville kunne sige var en lille smule posh – i den engelske betydning, altså lidt fornemt.

Det syntes vi var lidt sjovt, fordi vi ikke har nogen intentioner om at være posh. Så der ligger en form for selvironi bag navnet "Posh Jah".

Til at begynde med overvejede vi, om det skulle hedde "Jah Nigo" eller et eller andet, der betød nummer to-agtigt. Men vi havde ligesom kaldt det "Posh Jah" på arbejdspapirerne, netop for at lave lidt sjov med, at vi åbnede i Indre By.

Hvad er restaurantens filosofi eller vision?

Sigurd: Vores filosofi, helt kort, er at lave god mad, som smager af Japan, men lavet af de råvarer, vi har til rådighed her. Vi sigter efter et autentisk japansk køkken. Vi prøver ikke at lave et fusionskøkken, men arbejder selvfølgelig med de grøntsager, fisk og så videre, der er til rådighed for os her omkring.

Jeg tror, visionen er at lave et sted, som forsøger at vise en side af det fantastiske japanske køkken. Nu snakker hele København jo om Japan, og alle tager på ferie til Japan. Da vi åbnede Jah dengang, vidste folk ikke, hvad et izakaya-køkken var.

Så der har helt klart også været et formidlende aspekt i vores vision: Vi vil gerne vise, hvad et izakaya-køkken kan.

Hvad er forskellen mellem "Posh Jah" og "Jah Izakaya"?

Sigurd: Lokalerne er lidt anderledes. På "Posh Jah" er der et lidt lysere og mere rumligt udtryk. Der er selvfølgelig også to forskellige køkkenchefer på henholdsvis Jah og "Posh Jah". Shinya Ito, som er partner i begge Jahs, men køkkenchef på "Posh Jah", har sin egen unikke stil i køkkenet.

På "Posh Jah" laver vi også gyoza, friteret kylling

og den slags retter, men vi laver også lidt flere råserveringer og rigtig meget fisk og skaldyr. Vi



laver også lidt sushi på "Posh Jah". Det gør vi aldrig, eller i hvert fald yderst sjældent, på "Jah Izakaya".

Hvilken ret er mest populær blandt jeres gæster?

Sigurd: Jeg tror, en top tre vil være gyoza, tori no karaage og sashimi.

Derudover vil jeg fremhæve to andre retter, som vi har lavet fra starten, og som vi aldrig kommer til at fjerne fra menukortet: vores Agedashi Tofu og Ika Ichiyaboshi.





Hvad gør I for at mindske madspild?

Sigurd: Madspild er faktisk noget, køkkenet på begge restauranter bruger meget tid på at minimere og reducere. Det handler både om at lave rimelige bestillinger, som matcher antallet af vores gæster, men også om at lave retter, der tilpasser menustørrelsen, så folk kan spise, hvad der bliver serveret.

Der er også mange situationer, hvor vi bruger restprodukterne. Noget, som

køkkenet er rigtig gode til, er for eksempel at bruge de rester, der opstår under tilberedningen. Hvis man laver gyutataki, og endeskiverne og så videre er tilbage, så laver vi retter med det, der er blevet tilovers.

Det samme gælder blæksprutterne. Nu har jeg nævnt Ika Ichiyaboshi mange gange, men når man har ordnet blæksprutterne, er der arme, finner og andre dele tilbage. Så laver vi for eksempel gezo karaage med det.

Vi prøver hele tiden at smide så lidt ud som muligt.

Til Ika bruger vi danske blæksprutter, som smager fantastisk, særligt her i vinterhalvåret. Så det er to retter, jeg vil fremhæve.

Agedashi Tofu er jo en ret, man kan få på mange japanske steder, men jeg synes, den spejler niveauet i køkkenet her ret godt. Jeg synes, vores dashi smager, som en dashi skal smage.

Har I planer for fremtiden – udvidelse, nye retter eller samarbejde med japanske organisationer?

Sigurd: Udvidelse? Nej. Nye retter arbejder vi jo altid på.

Halvdelen af vores menukort er, hvad vi kalder sæsonretter, så dem forsøger vi at skifte ud, så de følger årstiderne. Om lidt kommer solen frem, og så kommer der asparges, fjordrejer og sådan nogle ting på menuen.

Lige nu er der rigtig mange ting fra havet, som smager godt. Når vandet er lidt koldere, peaker blæksprutterne for eksempel.

Vi arbejder på at have et menukort, som både har retter, man altid kan få – gyoza, tori no karaage, ika, tofu og sashimi – men også retter, som ændrer sig og følger sæsonerne.

Vi laver jævnligt forskellige samarbejder med japanske organisationer. Vi har lige lavet et samarbejde med en risproducent. Sidste år havde vi et samarbejde med Nakano-præfekturet, og lige nu arbejder vi på et samarbejde, der handler om sake og en speciel region i Japan.



Exclusive for Japanese Association Members

日本人会会員限定

MOCHI
time



15%OFF

特別な割引プラン
A special discount offer

餅

アイス
Mochi



How to Claim Your Discount

Please present your proof of Japanese Association membership fee payment such as "bank transfer confirmation screen"

日本人会の会費振込の証明（銀行振込の確認画面など）
をご提示ください。



Shop Information

TorvehallerneKBH, Copenhagen

<https://www.mochitimecph.com/>

info@mochitimecph.com



大使館からのお知らせ

～日本の旅券(パスポート)のセキュリティが強化され、新しいパスポートは交付までに1ヶ月程度かかります。ご旅行等を計画されている際にはご注意願います～

1 早期の旅券切替申請のお願い

令和7年3月24日から、旅券の偽変造対策を強化した「2025年旅券」の発給が開始されました。「2025年旅券」は在外公館で作成できず、全て日本国内で作成され当館まで配送されているため、旅券の申請から交付まで約1か月程度を要します。この機会に、改めて、現在お持ちの旅券の有効期間が十分かご確認いただき、早めの旅券の切替申請をご検討ください。旅券の残存有効期間が1年未満の場合に切替申請が可能です。また、オンライン申請の利用も併せてご検討ください。

2 犯罪被害に遭わないために

最近、コペンハーゲン市内のメトロ車内、アマリエンボー宮殿、コペンハーゲン中央駅、ストロイエ通り、ニューハウン、コペンハーゲン空港等において日本人が被害に遭うスリが多発していますので、財布や旅券等の貴重品類は、できるだけ内ポケット等の衣類の内側に入れて肌身離さず身に付けてください。また、人通りの多い場所ではショルダーバッグやバッグは体の前に抱えて持ち、常に視界の中に置くなど、十分気をつけてください。

もし、日本からの旅行者がパスポートを盗難されたり、紛失した場合には、新規パスポートは日本国内で作成するのでデンマークで交付を受けるためには約4週間かかるため、多くの場合は、帰国のための渡航書(緊急に日本に帰国する必要がある場合にパスポートの代わりに発給するもの)の発給が必要となり、旅程変更を余儀なくされることになります。帰国のための渡航書は、トランジットを除き、他の国への渡航に利用ができません。そのため、出張や周遊旅行に伴い旅程に他の国への渡航が含まれている場合には、日本へ帰国するためのフライトに変更する必要があるが生じ、経済的に大きな負担がかかるなど、大きな支障を来すことになります。皆様の周りでデンマークに渡航予定の方がいらっしゃれば、注意喚起をお願いいたします。

3 在留届の届出のお願い

(1)在留届とは

旅券法第16条により、外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在する日本人は、その地域を管轄する日本の大使館又は総領事館(在外公館)に「在留届」を提出することが義務付けられています。まだ在留届をご提出いただいていない方は、早期のご提出をお願いいたします。

(2)届出方法

ア 新規届出

在留届の新規届出は外務省ホームページの「在留届電子届出システム(ORRネット)」(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>)からオンラインで提出することが可能です。また、書面による届出をご希望の方は、当館領事窓口への提出又は郵送も受け付けていますが、旅券のオンライン申請には同システムにより在留届を提出する必要があるため、オンライン提出をおすすめします。

イ 記載事項の変更

住所や緊急連絡先など記載事項に変更が生じた場合、「在留届電子届出システム(ORRネット)」により届出された方は、同システムからオンラインで変更のお手続きをいただくことが可能です。一方、書面で大使館に届出をされた方は、当館領事窓口にて変更内容をお申し出いただくか、郵便または電子メールにて当館までご連絡ください。

ウ 帰国・転出届

帰国又は当館管轄地域外へ転出する場合は「帰国・転出届」を提出してください。「在留届電子届出システム(ORRネット)」により届出された方は、同システムからオンラインで変更のお手続きをいただくことが可能です。一方、書面で大使館に届出をされた方は、当館領事窓口にて変更内容をお申し出いただくか、郵便または電子メールにて当館までご連絡ください。

緊急事態発生時などの安否確認作業に支障を来すおそれがありますので、帰国・転出される際は、忘れずに帰国・転出届を提出いただきますようご協力をお願いします。

(3)領事メールの発信

在留届に記載していただいたメールアドレス宛に、事件・事故の情報、注意が必要なイベントに関する安全情報、教科書配布など生活のために必要な情報をお知らせしています。

4 令和8年度領事出張サービスについて

本年度は、11月8日(日)午後、9日(月)午前におース市内において、領事出張サービスを実施する予定です。領事出張サービスは、旅券、各種証明の交付や在外選挙人名簿登録申請の受付を行う予定です。是非ご利用下さい。詳しい日程や場所が確定しましたら、領事メールや当館ホームページ等でご案内する予定です。なお、一昨年度まで実施していた旅券の即日発給サービスは実施できませんので、ご留意ください。領事出張サービスについて、ご不明な点やご質問等がありましたら、当館領事班(代表:3311 3344)までご連絡下さい。

5 在外選挙人名簿への登録について

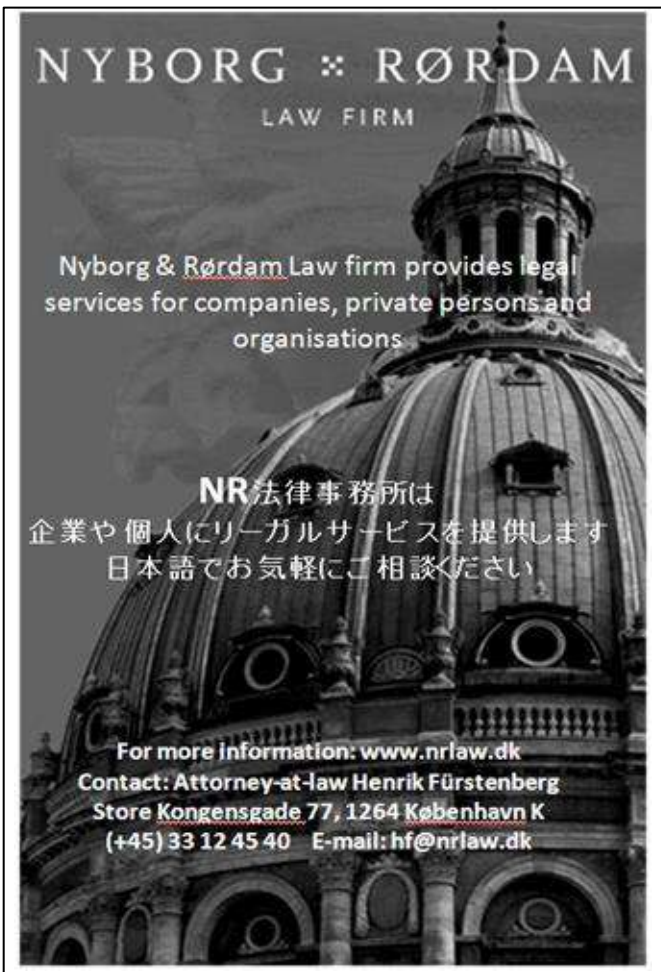
在外選挙人名簿登録は、申請から在外選挙人証の交付まで2か月程度かかる場合がありますので、まだ登録がお済みでない方は、早めにお手続きをお願いいたします。在外選挙人証を取得した場合、一時帰国等の場合には日本国内で投票することも可能となります。また、在外選挙人証を紛失された方や在外選挙人証の「投票用紙等の交付状況」欄に記載する余白がなくなった方については、再交付申請が可能です。再交付申請は、郵送でも受け付けていますので、

郵送を希望される場合には「在外選挙人証再交付申請書(兼記載事項変更届出書) : 外務省ホームページでダウンロード可」、「お手持ちの在外選挙人証(紛失の場合を除く)」及び「氏名・住所を記載した返信用封筒」を同封の上、当館宛てに郵送してください。

6 領事窓口のご案内

現在、多数の来館者にお越しいただいており、時間帯によっては領事窓口が大変混雑しています。特に、月曜日の午前や金曜日の午後は混雑する傾向にあります。迅速な受理、各種発給等に努めていますが、なるべく日程に余裕を持って申請していただくとともに、できる限り窓口が閉まる30分前に来訪いただきますよう皆様のご協力をお願いいたします。

・領事窓口開館時間 平日(開館日) 午前9時から正午まで/午後1時30分から午後4時まで



NYBORG & RØRDAM
LAW FIRM

Nyborg & Rørdam Law firm provides legal services for companies, private persons and organisations

NR法律事務所は
企業や個人にリーガルサービスを提供します
日本語でお気軽にご相談ください

For more information: www.nrlaw.dk
Contact: Attorney-at-law Henrik Fürstenberg
Store Kongensgade 77, 1264 København K
(+45) 33 12 45 40 E-mail: hf@nrlaw.dk



在外選挙の 制度と手続について



在留届の
提出も
忘れずに！



在外投票のためには在外選挙人証の取得が必要です

在外選挙人名簿登録資格

- ① 満 18 歳以上
- ② 日本国籍保有者
- ③ 海外に 3 か月以上居住
(出国時登録申請者を除く)



同居家族による代理申請もできます。

申請者の署名入り登録申請書及び申出書*、
申請者及び代理の方のパスポートをご用意ください。
※登録申請書及び申出書は、領事窓口又は外務省、
総務省のホームページから入手できます。

申請から受取までは一定の時間がかかります。
選挙直前の登録申請では投票までに間に合わない可能性がありますので、お早めにお手続きください。

必要書類を準備し
申請書に記入、大使館、
総領事館等窓口で登録申請

3 か月の居住期間経過後に
大使館などから住所確認の
連絡を受ける

在外選挙人証の受取
(郵送又は領事窓口)

用意する物

- ・パスポート
- ・登録申請書
- ・居住している事を
証明できる書類
(在留届を提出済の方は不要です。)



日本大使館・総領事館等



在外選挙人証



※万が一、申請後、約 3 か月を経過しても連絡がない場合には、申請館に進捗状況をご確認いただきますようお願いいたします。
(申請先の公館管轄内に新たに転入されて 3 か月未満の方は、在外公館の窓口で申請の際に手続期間の見込みをご確認ください。)

在外投票は次の 3 つの方法から選択できます

在外公館等投票



直接日本大使館・総領事館等に
出向いて投票する方法

郵便等投票



投票用紙等を事前に請求して、
記載の上、登録先の選挙管理
委員会へ郵送する方法

日本国内で投票



一時帰国した方や、帰国直後で
転入届を提出して 3 か月未満の方は、
日本国内でも投票できます。

詳しくは、**在デンマーク日本国大使館**
TEL: 3311 3344 Mail: ryoji.han@ch.mofa.go.jp

または

外務省 在外選挙 検索
まで



アンデルセン

ANDERSEN BAKERY



Thorshavnsgrde 26, 2300 København S

Tlf: 3375 0735 mail:kontakt@andersenbakery.com

最近のニュースは、世界の政治から自然環境に至るまで、本
当に不安定で視界不良のような状況です。普通の日常
があることがいかにありがたいことかと、実感していま
す。マイナッツ

今回初めて会報誌のレイアウトのお手伝いをしました。
どのようにテキストや写真を配置しようかと考えなが
ら楽しく取り組みさせて頂きました。記事の内容がより伝
わるような読みやすいレイアウトを心がけていきたい
です。また、漫画も楽しんでいただけたら嬉しいです。

友理香

レイアウト歴二十年以上、今回初めてチーム長に昇格し
ました。新たな気持ちで頑張ります！

そして、餅タイムの餅アイスもぜひ 会員限定割引を
ご利用ください♪ 宏子

今回また日本人会会誌の編集に携われたことを嬉しく
思います。お誘いくださいました編集長の山川さん及び
どきさんには大変感謝しております。数々の困難はあけ
たことを改めて感謝申し上げます。

小栗慎司

今号から、会報誌編集長として、素人ながら、編集班、
レイアウト班の皆さんのお力で、会報誌七一号を発信で
きたことは、感激の極みです。皆さんありがとうございます。
しました。会員の皆様のため、会報誌作りを目指して努力
していきますので、今後も宜しくお願いします。

山川愛